

A diver is silhouetted against the bright blue light of an opening in a dark underwater cave. The diver is wearing a full scuba gear, including a tank and fins, and is positioned in the center of the frame, looking towards the light. The cave walls are dark and textured, creating a sense of depth and mystery.

NEEDS FinancialQUEST 2.0

**NEEDS-FinancialQUEST2.0
ご利用の手引き**

日本経済新聞社

NEEDS-FinancialQUEST

【目次】

I サービス概要	1
1. NEEDS-FinancialQUEST の特徴	1
2. 起動／終了方法	2
3. システム要件	5
4. サービス提供時間	5
5. お問い合わせ	5
II データ取得の流れ	6
1. 簡易検索：株式データの検索事例	6
2. 詳細検索①：日経総合経済ファイルの検索事例	11
3. 詳細検索②：財務（短信・有報）データの検索事例	16
III 詳細検索画面上の便利な機能	22
1. 検索条件シートの読み込み	22
2. ターゲット選択画面	24
3. スクリーニング／ソート機能	26
4. アイテム指定画面	32
5. 季節調整の使い方	35
6. ダウンロード画面の設定項目	39
7. 設定内容の一括確認	41
8. 自動運転の使い方	42
9. 資料および設定の参照方法（コードブック、使い方、環境設定）	44
データベース一覧	47

※Copyright (C) 2021 NIKKEI MEDIA MARKETING INC. All Rights Reserved.

※本「ご利用の手引き」の全てや一部を無断で複製、使用することを禁じます。

※本サービスの著作権は日本経済新聞社にあります。本サービスの全てや一部を無断で複製、使用することを禁じます。

※本サービスのセットアップ、利用と本マニュアルの利用にともなう生じた結果について日本経済新聞社は責任を負いません。

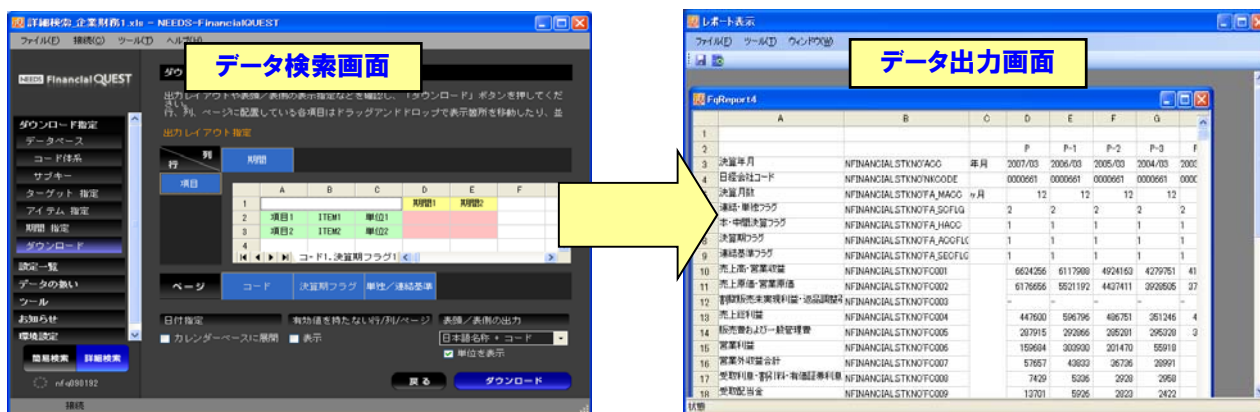
※Microsoft, Windows, Excel, Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国ならびにその他の国における商標、または登録商標です。

「NEEDS-FinancialQUEST ご利用の手引き」 2021.04

I サービス概要

1. NEEDS-FinancialQUEST の特徴

NEEDS-FinancialQUEST（以下、FQ）は、様々な分野の経済データを取得できる、日本最大級の会員制情報サービスです。



(1) 株価や財務、マクロ経済など多様なデータを収録

FQ では「株式」「企業財務」「日経総合経済ファイル」など多数のデータベースを参照できます。日本経済新聞デジタルメディアが収録する「NEEDS」データベースから用途に合わせたデータをすばやく取得することが可能です。

(2) 最新のデータをいち早く取得

インターネット経由でデータを取得するため、最新の情報をいち早くダウンロードすることが可能です。例えば株式データベースの日次株価データは各証券営業日の午後 3 時 40 分ごろ、日経総合経済ファイルのマクロ経済データは原則として公表日当日にデータを追加します。

(3) GUI 形式の操作画面によりデータ取得が簡単

画面上のアイコンに従って操作する GUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）を採用しており、マウス操作だけで簡単にデータを取得できます。どのデータベースでも同じ操作性で検索できます。

(4) Excel 形式でデータを出力できる

ダウンロードしたデータを Excel 形式のファイルで保存する機能を設けています。Excel を活用すれば、取得したデータから数表やグラフを作成したり、集計・分析が可能になります。

(5) スクリーニング、ソートなど、目的のデータを取得できる機能が満載

「売上高が 1 兆円を超える会社」などの条件を指定して検索対象を絞り込める「スクリーニング機能」や、「企業の時価総額の多い順」などの条件でデータを並べ替えられる「ソート機能」など、用途に応じたデータを取得できる多くの機能を備えています。

2. 起動／終了方法

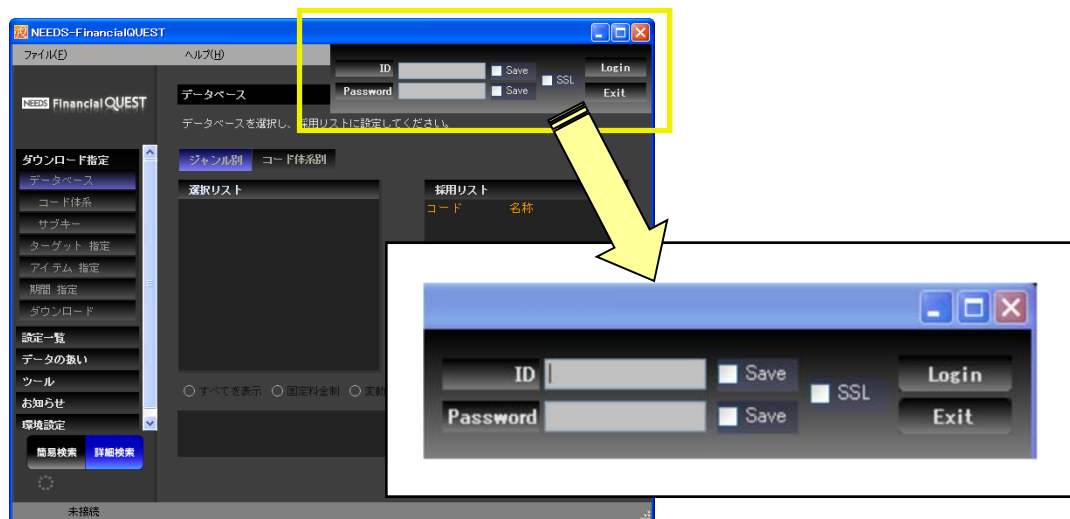
(1) ログイン

FQ を利用するときは、ブラウザ（Internet Explorer のみに対応しています）を利用して次の URL に接続します。

<http://finquest.nikkeidb.or.jp/ver2/online>



画面左の「Financial QUEST を起動」ボタンをクリックします。



右上の ID、Password 欄を入力し、「Login」ボタンを押します。

- ※ ID、Password は必ず半角で入力して下さい（英大文字・小文字は区別しません）。
- ※ 入力した ID、パスワードを保存するには「Save」に マークを付けて下さい。
- ※ 暗号化された通信を行うには「SSL」に マークを付けてログイン手続きを行います。通常はこの方式をお勧めしますが、環境によっては SSL (Secure Socket Layer)での通信がエラーとなる場合があります。その際はチェックをはずしてご利用下さい。

(2) ログイン後の画面構成



① ナビゲーション	ナビゲーションに示されるダウンロード手順に沿って画面を進んでいけば、簡単なステップでデータを取得できます。
② 検索画面切り替えボタン	FQでは、簡易と詳細の検索画面を選択することが可能です。簡易検索は必要最低限の設定のみで簡単にデータをダウンロードでき、詳細検索では様々なオプションや期間などの条件を細かく指定することができます。
③ データ設定領域	アイテムやターゲットの指定、期間設定など、データ取得のための条件設定は全てこちらの領域で行います。

(3) 検索の新規開始

すでに設定した検索条件をクリアして新規に検索を始める場合は、メニューバーの「ファイル」から「新規作成」を選びます。データベースやターゲット等の設定が消去され、条件を新たに指定できます（「データの扱い」や「環境設定」などの設定はクリアされません）。

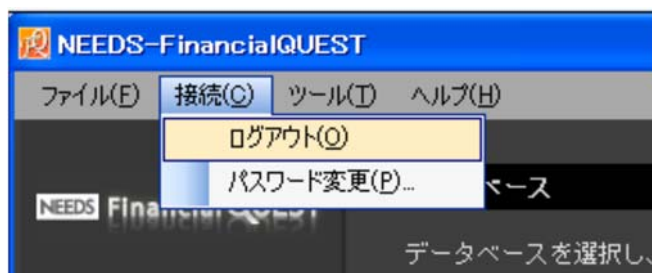
(4) 終了方法

FQを終了する場合は画面右上の閉じるボタン「×」を押します。アプリケーションの実行中に簡易検索／詳細検索を切り替えた場合、次回起動時は最後に利用した検索モードで開始します。



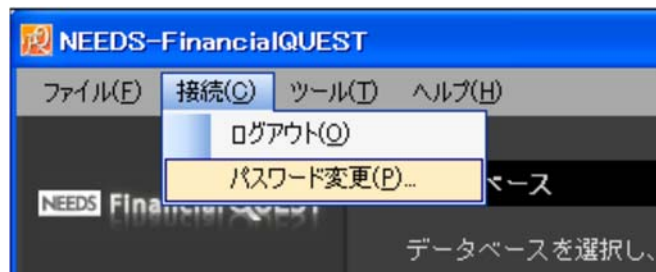
(5) ログアウト

一旦ログアウトする場合は「接続」メニューの「ログアウト」を選んで下さい（それまでに設定した検索条件はリセットされます）。ログアウトすると画面右上にログイン用の入力窓が表示されますので、再度ログインする場合は ID とパスワードを入力して「ログイン」ボタンを押します。



(6) パスワードの変更

現在設定されているパスワードを変更したい場合は、「接続」メニューの「パスワード変更」から行って下さい。



ここで、現行のパスワードと、変更後のパスワード(新パスワード)を入力して「OK」ボタンを押します。新パスワードは入力ミスを防ぐために、2カ所に同じものを入力します。

パスワード変更

現パスワード

新パスワード

新パスワード(再入力)

OK

キャンセル

*****パスワードに指定できる文字列の条件*****

- 長さ：最小6桁 最大21桁
- 利用可能文字：数字[0-9] 英字[A-Z] 記号[#\$%&@¥_]
- 英字は大文字・小文字の区別はありません。
- 先頭文字に限り「数字」は不可です。
- 記号だけ、または数字だけのパスワードは指定できません。

3. システム要件

FQ のサービスをご利用いただく際、アプリケーション自体のインストール作業は不要です。ただし、使用する端末が以下に示したシステム要件を満たしている必要があります。このうち、Microsoft .NET Framework のインストールについては、別途用意している資料をご参照下さい。

●ご利用環境

利 用 可 能 O S	Microsoft Windows 8.1 Microsoft Windows 10
ブ ラ ウ ザ	Microsoft Internet Explorer 11, Edge
必 要 な ソ フ ト	Microsoft .NET Framework 4.5.2 以上 Microsoft Excel 2013, 2016, 2019 (※Excel は任意。インストールされていなくても動作します)
通 信 環 境	インターネット接続が可能な通信環境
動 作 権 限	管理者権限でなくても動作します。ただし、同一 PC でもユーザごとにソフトウェアのダウンロードが必要です。
ブ ラ ウ ザ に つ い て	Microsoft 社が開発したソフトウェアの配布・更新技術である Clickonce (クリックワンス) を採用。ソフトウェアの起動には、同社の Internet Explorer, Edge が必要です。 「Chromium 版 Edge」利用時にはブラウザの設定変更が必要です。
Microsoft .NET Frameworkについて	Microsoft .NET Framework は 4.5.2 以上のバージョンが必要です。 Windows 10 には .NET Framework 4.5.2 以上 が標準で搭載されていますので、インストールは不要です。

※ご利用の PC 環境によっては、別途アプリケーションのインストール作業が必要になる場合もあります。

4. サービス提供時間

- 毎週月曜日 5 : 00 ~ 日曜日 15 : 00
(日 15 : 00 ~ 月 5 : 00 の間はシステムメンテナンスのため、全てのサービスをご利用できません)
- ただし、毎年 1 月 1 日は終日お休みをいただきます。

5. お問い合わせ

FQ に関するご質問 (データの内容、操作方法、システムに関する事など) は、電話あるいは E-mail で下記までお問い合わせ下さい。

日経メディアマーケティング株式会社
N E E D S サポートチーム
T e l : 0 3 - 5 2 9 5 - 6 2 1 7
M a i l : support@nikkeimm.co.jp

II データ取得の流れ

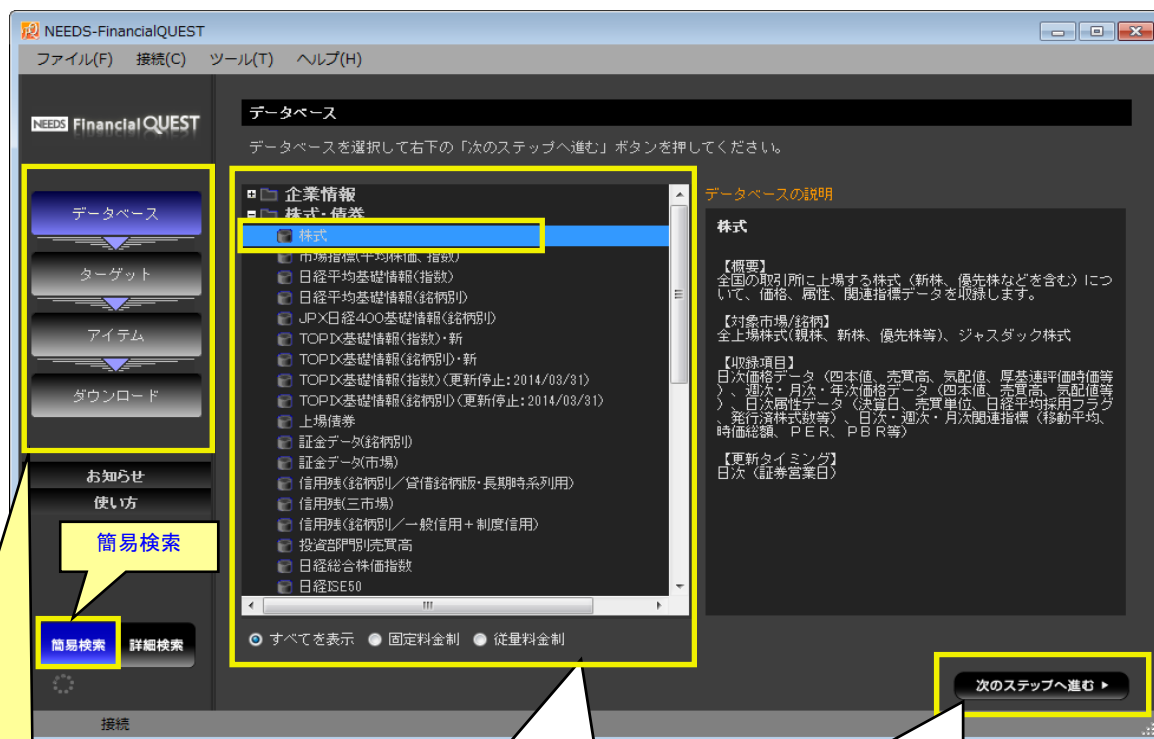
1. 簡易検索：株式データの検索事例

まずは簡易検索画面で「株式」データを取得する流れを説明します。簡易検索の場合、画面中央に表示される設定パネルで自分のとりたいデータの条件を指定しながら順次画面を進めていけば、簡単にデータがダウンロードできるしくみになっています。そのかわり、細かいオプション指定はデフォルトのまま自由に変更できない箇所があります。以下では個別銘柄（ここでは自動車会社3社）の4本値（始値、高値、安値、終値）の取得を例に、操作の流れをみていきます。

- | | |
|---------------|-----------------------------------|
| (1) データベースの指定 | 株式・債券グループから「株式」を選びます。 |
| (2) 銘柄の指定 | 検索対象銘柄にトヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業を指定します。 |
| (3) 項目の指定 | 検索対象項目として始値、高値、安値、終値の4つを選びます。 |
| (4) ダウンロード | レイアウトを指定してダウンロードします。 |
| (5) データの出力 | データを出力します。 |

(1) データベースの指定

簡易検索画面を起動すると、まずデータベースの選択画面が表示されます。データベースはカテゴリ別に分類されていますので、「+」マークをクリックしてツリーを展開し、「株式・債券」グループの中から「株式」をクリックし、画面右下の「次のステップへ進む」ボタンを押して下さい。



簡易検索画面ではナビゲーションを直接クリックすることはできませんが、現在ユーザが設定中の箇所がハイライトになり、ひとめで確認できます。

①一覧から「株式」をクリックします。簡易検索では複数のデータベースを同時に指定することはできません。

②データベースを選択したら「次のステップへ進む」ボタンを押します。

※ データベースを選択すると、画面右側に収録内容や更新頻度などの説明が表示されます。検索対象を決める際はこちらを参考にして下さい。

※ 簡易検索画面では、データベースをひとつしか選択することができません。複数のデータベースを一度に指定したい場合は、後述の「詳細検索」から設定を行って下さい。

(2) 銘柄の指定

次のステップでは、出力対象の銘柄（企業名）を指定します。グループリストのツリーは「+」マークをクリックすると下位に展開します。ここでは「業種分類」－「日経業種分類」－「製造業」－「自動車」とたどり、一番下位の「自動車」グループをクリックします。その後、右側の選択リストに表示された会社の一覧から日産、トヨタ、本田の3社を「採用」して下さい。指定した会社は画面下段の「採用リスト」に表示されますので、確認したら「次のステップへ進む」ボタンを押します。

銘柄を選択し、採用ボタンを押してください。

①一覧から該当するグループをシングルクリックで展開していきます。一番下のグループはクリックすれば右欄に個別会社の一覧が表示されます

②必要な個別銘柄を選択し、「採用」ボタンを押します

③採用ボタン

④採用した銘柄一覧は「採用リスト」に表示されます

コード	名称
T7201	日産自動車
T7202	いすゞ自動車
T7203	トヨタ自動車
T7205	日野自動車
T7211	三菱自動車工業
T7223	日産自動車工業

コード	名称
T7201	日産自動車
T7203	トヨタ自動車
	本田技研工業

- ※ 簡易検索画面での会社指定は、上場企業に対して付番される「株式コード」のみに対応しています。
- ※ 銘柄は1つずつ「採用」ボタンを押すことも、CtrlやShiftキーを用いて複数を一度に選択することもできます。
- ※ 画面左側のグループリストの項目名をダブルクリックするか、右クリックメニューから「採用」とすれば、グループ全体を一度に採用できます。

●銘柄を検索する方法

画面右上の検索ボックスを使えば銘柄のキーワード検索ができます。キーワードには日本語、英語、コード（ここでは株式コード）のいずれも用いることが可能です。

トヨタ| 検索

7203| 検索

TOYOTA| 検索

コード	日本語名称	英語名称
T1796	トヨタウッドユーホーム	TOYOTA WOODYOU HOME
T9848	トヨタカローラ岐阜	TOYOTA COROLLA GIFU
T7203	トヨタ自動車	TOYOTA MOTOR
T7223	トヨタ自動車東日本	TOYOTA MOTOR EAST JAPAN
T7221	トヨタ車体	TOYOTA AUTO BODY
T3116	トヨタ紡織	TOYOTA BOSHOKU

6件 閉じる 採用

(3) 項目の指定

続いてデータの出力対象とする項目を指定します。項目についてもターゲット同様、「グループリスト」のツリーをたどるか、検索機能が利用できますが、ここでは「日次株価」グループをクリックし、選択リストの一覧から、始値、高値、安値、終値の4項目を選択して採用します。採用項目リストに4本値のアイテムが入っていることを確認したら、「次のステップへ進む」ボタンを押して下さい。

項目を選択し、採用ボタンを押してください

キーワード検索をする場合はこちらから

①一覧から該当するグループを展開していきます。一番下のグループをシングルクリックすると、右欄の選択リストにアイテム一覧が表示されます

②必要なアイテムを選択し、「採用」ボタンを押します

③採用ボタン

④採用したアイテム一覧は「採用項目リスト」に表示されます

● 検索機能を使ってアイテムを探す方法

画面右上の検索ボックスを使えばアイテム系列の検索ができます。キーワードは日本語、英語、コードのいずれも用いることが可能です。また、複数のキーワードを入力する場合は、単語同士の間にスペースを入れて下さい。



キーワード入力後、検索ボタンを押します

検索結果

全て選択 全てクリア

コード	日本語名称	英語名称
MKTV	時価総額	Market Value
MCKTVAV	時価総額・月中平均	Daily Avg. of Marke
MMK TVAVG	時価総額・月平均値	Market Value (month
MCKMKT	時価総額・月末値	End-of-Month Market
MMKTV	時価総額・日末値	Market Value (month

11件 閉じる 採用

一覧から必要な系列をクリックし採用ボタンを押します

● データの収録状況を確認する方法

採用項目リストに設定したアイテムの収録期間をあらかじめ確認したいときは、一覧から該当するアイテムを選択し、マウスを右クリックしてから「収録状況表示」を選択すれば別ウィンドウが開き、現在の収録状況を確認することができます（ターゲットを指定している場合は、収録状況を確認したいターゲットも選択可能です）。※収録状況の確認方法は詳細検索画面も同様です。

採用項目リスト

名称	期種
始値	年次(A), 日次(D),
高値	年次(A), 日次(D),
安値	年次(A), 日次(D),
終値	年次(A), 日次(D),

プロパティ...
名称コピー
取り消し
収録状況表示...
状況表示(全期間)...

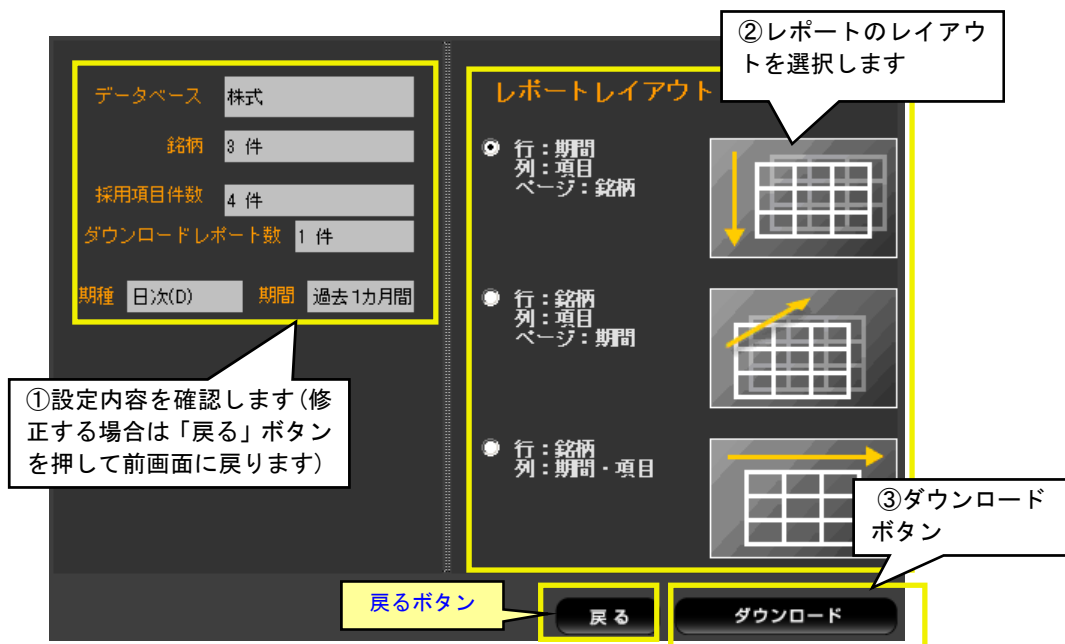
収録状況表示

サービ	漢字銘柄名	コード	株式区分	取引所	項目	コード	期種	開始期	終了期	DP
株式	日産自動車	T7201	親株式	東証	始値	OPEN	日次(D)	1977/01/04	2018/10/30	2
株式	日産自動車	T7201	親株式	大証	始値	OPEN	日次(D)	1977/01/04	2003/02/28	2
株式	日産自動車	T7201	親株式	名証	始値	OPEN	日次(D)	2000/09/04	2003/02/28	2
株式	日産自動車	T7201	親株式	東証	高値	HIGH	日次(D)	1977/01/04	2018/10/30	2
株式	日産自動車	T7201	親株式	大証	高値	HIGH	日次(D)	1977/01/04	2003/02/28	2

1/1 (12) 戻る 次へ コピー 閉じる

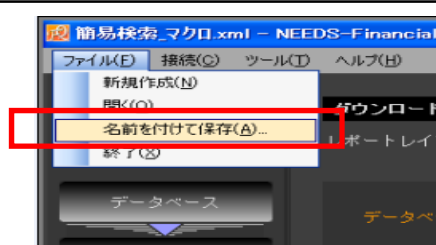
(4) ダウンロード

ここでこれまでの設定内容を確認します。簡易検索ではデータの期種によってダウンロード期間があらかじめ決められており、それを変更することはできません（例えば日次株価データの場合、出力期間は「過去 1 カ月間」になります）。一方、レポートのレイアウトは表示された候補の中からひとつ選択することができます。確認が終わったら、最後に「ダウンロード」ボタンを押して下さい。



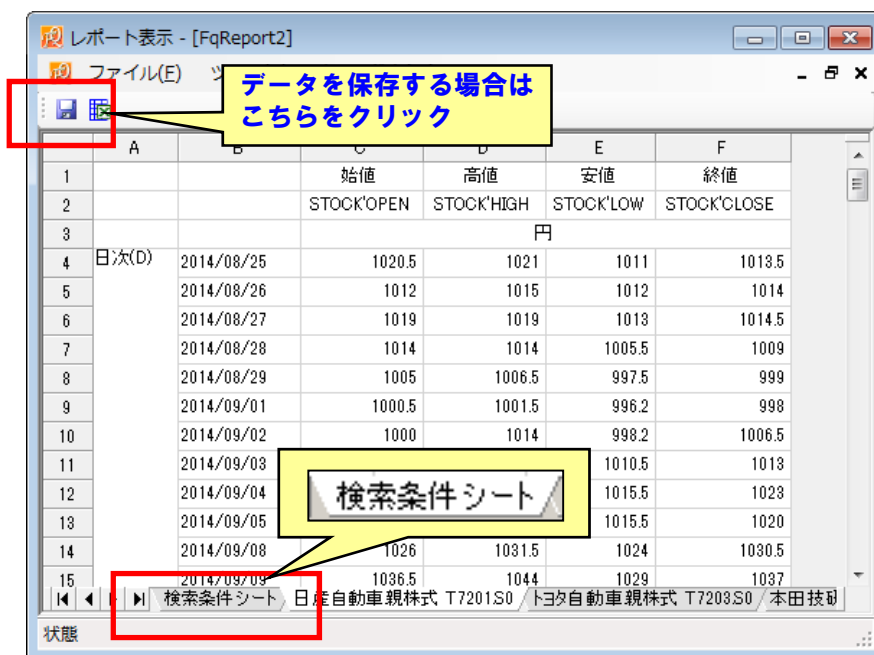
●簡易検索の条件設定ファイル保存機能

ダウンロード画面へ移動後、「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」を選ぶと、それまでに指定した検索条件をXML形式のファイルで保存できます。XMLファイルは、簡易検索画面のメニューから再度「ファイル」-「開く」とすれば、同じ検索条件を再現することが可能です。



(5) データの出力

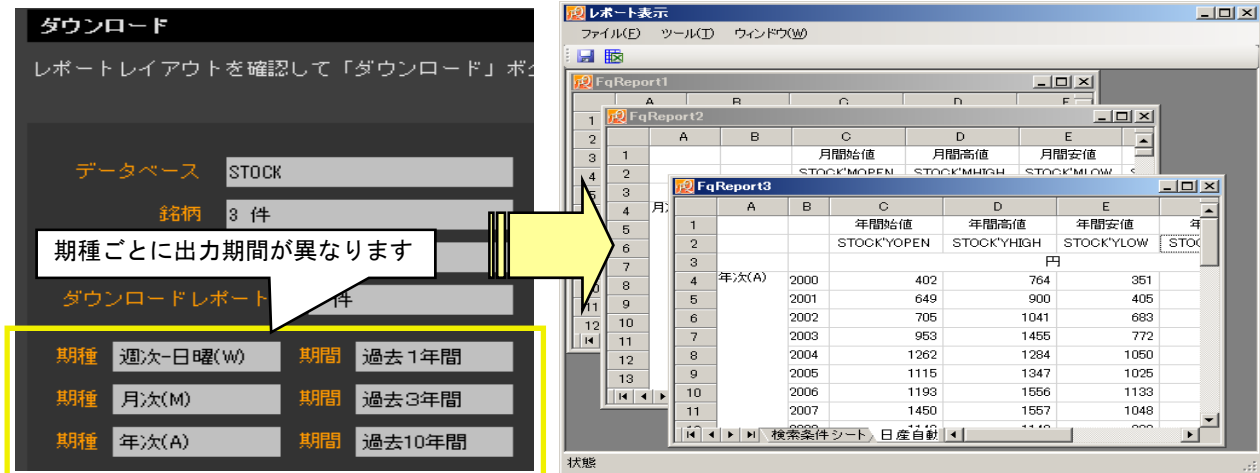
ダウンロードボタンを押してからしばらくするとデータが出力されます。データを保存する場合は「ファイル」メニューから「保存 (Ctrl+S)」を選択するか、画面左上の「保存」アイコンを押して下さい。保存したファイルはExcel形式になります。



出力ファイル左端の「検索条件シート」には取得したデータの条件が保存されており、このシートがあれば、簡単にデータを再取得できます (検索条件の再読み込みは、後述の説明を参照下さい)。

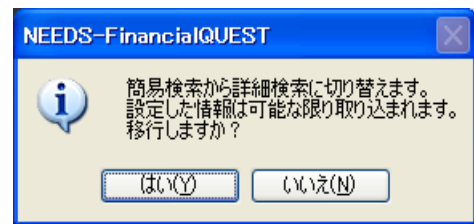
●簡易検索で異なる期種のデータをダウンロードする場合

簡易検索画面で異なる期種のアイテムを採用すると、最後の確認画面に各期種のデータ出力期間が表示されます。ただし、FQでは異なる期種のデータをひとつのシートに一括出力することができないため、データは期種ごとに別々に出力されます。この場合、出力されたファイルごとに名前を付けて保存する必要がありますのでご注意ください。



●簡易検索から詳細検索への移行

簡易検索では、期間や細かいオプション指定があらかじめ決められており、自由に変更することができません。データの設定条件（例えば期間など）をもっと細かく指定したい場合は、現在の設定を「詳細検索画面」へと移行させることができます。FQ画面の左下にある「詳細検索」ボタンを押すとそれまでに設定した内容は自動的に詳細検索画面へと引き継がれますので、あとは必要な箇所を修正し、データの再ダウンロードを行って下さい。



※ 1回当たりでダウンロードできるデータの最大量には、以下のような制限がありますのでご注意ください（簡易検索でも詳細検索でも制限は同じです）。

ターゲット数	20,000 個
アイテム数	2,000 個
期間数	10,000 期
ターゲット数×期間数	200,000 件
レポートの行数	16,000 行
レポートの列数	255 列
レポートのページ数	255 ページ
レポートのセル数	300,000 セル
1回当たりの検索時間	30 分

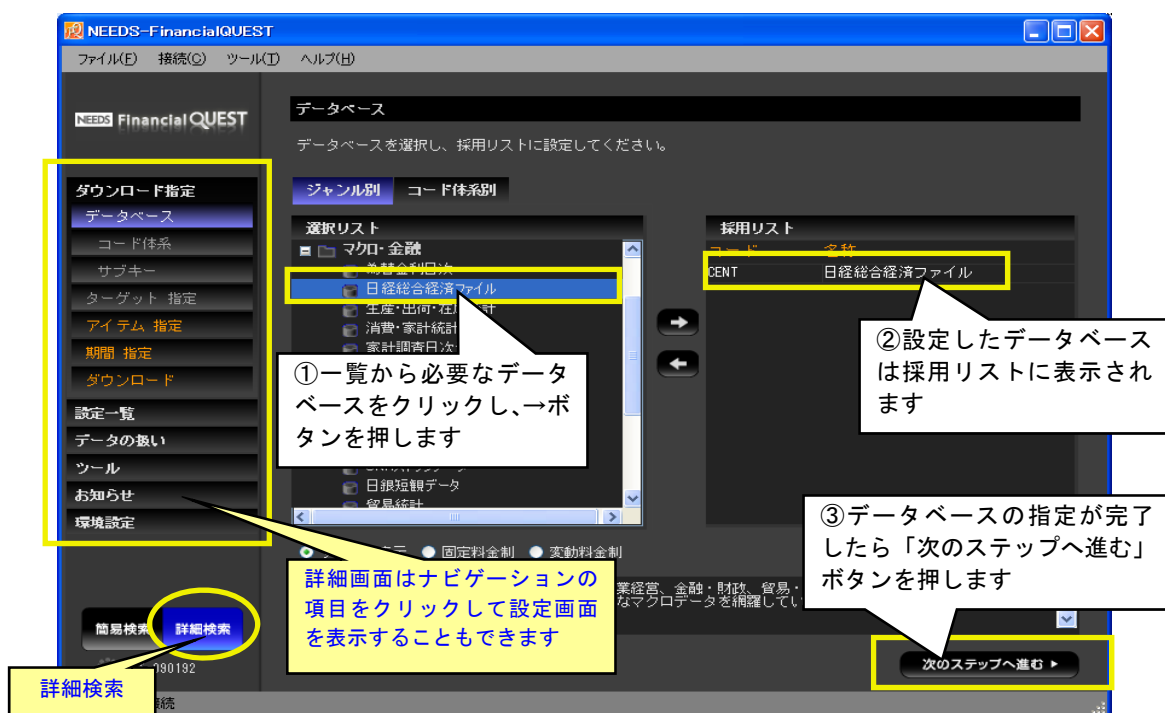
2. 詳細検索①：日経総合経済ファイルの検索事例

つぎに、詳細検索画面から「日経総合経済ファイル」のデータを取得する手順をみていきます。ここではマクロ系のデータベースから、経済産業省が毎月公表する「鉱工業生産指数」のデータを例にとって、操作の流れを説明します。

- | | |
|---------------|-----------------------------------|
| (1) データベースの指定 | 検索対象のデータベース「日経総合経済ファイル」を指定します。 |
| (2) アイテムの指定 | 検索対象の項目（鉱工業指数3項目）を指定します。 |
| (3) 期間の設定 | 取得するデータの期間（2000年から直近まで）を選択します。 |
| (4) ダウンロード画面 | レイアウトや出力オプションを調整して、データをダウンロードします。 |
| (5) データの出力 | データを出力します。 |

(1) データベースの指定

詳細検索画面を起動すると、まずデータベースの選択画面が表示されます。ここではジャンル別一覧の「マクロ・金融」のツリーを開き「日経総合経済ファイル」を選択してから「右矢印 (→)」ボタンを押して下さい（ダブルクリックでも可能です）。必要なデータベースの設定が完了したら、「次のステップへ進む」ボタンを押します。



※ 詳細検索画面では、複数のデータベースを採用リストに設定することができます。その場合は選択リストの一覧から必要なデータベースを右側の採用リストへ全て移して下さい。タイプによって同時に選択できないデータベースが存在する場合は、選択リスト一覧の該当データベースがクリックできなくなるので判別可能です。

※ マクロ経済系のデータベースを検索する場合はコード体系、サブキー、ターゲットを指定する必要はありません。データベース指定後、次のステップに進むと、必要のない画面はスキップしてアイテム指定画面へ移ります。

(2) アイテムの指定

続いてデータの出力対象とするアイテム（データ系列）を指定します。ここでは画面左側のグループリストの「目次」から「生産・企業経営」を展開し、さらに「鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率指数（季調済指数、15年基準）」をクリックして選択します。画面右側の選択リストに項目の内訳が表示されますので、つぎの3つの項目を選んで「採用」ボタンを押します。その後「次のステップへ進む」ボタンを押して下さい。

①グループリストから「生産・企業経営」を選択し、鉱工業指数の該当グループまで順次たどっていきます

②一覧から目的のアイテムを選択し、採用ボタンを押します

③採用ボタン

④採用したアイテムの一覧が表示されます

⑤次のステップへ

指定するアイテム例

アイテムコード	日本語名称
IIP15P001@	鉱工業指数 生産 鉱工業（季節調整済）
IIP15P002@	鉱工業指数 生産 製造工業（季節調整済）
IIP15P003@	鉱工業指数 生産 鉄鋼・非鉄金属工業（季節調整済）

※コード末尾の「@」（アットマーク）は該当系列が季節調整値であることを意味します。

● アイテムの指定方法：個別採用とグループ採用

グループリストは「+」マークをシングルクリックすれば下に展開します。最下層のグループ（左横に「+」のマークがついていません）をクリックすると画面右側の「選択リスト」に具体的なアイテム一覧が表示され、採用系列を細かく指定することができます。一方、グループリストはダブルクリックすることにより、そのグループ内のアイテム全部を一度に採用することも可能です。用途に応じてグループ採用と個別採用を使い分けて下さい。

個別にアイテムを選択する場合は、こちらの「選択リスト」一覧から必要な系列を選択し「採用」ボタンを押します

アイテムグループをダブルクリックすると、一度にグループ内のアイテム全てを選択できます。この場合、採用リストにはグループ名が表示されます。詳細検索画面では、上位階層のグループもダブルクリックで一括採用が可能です

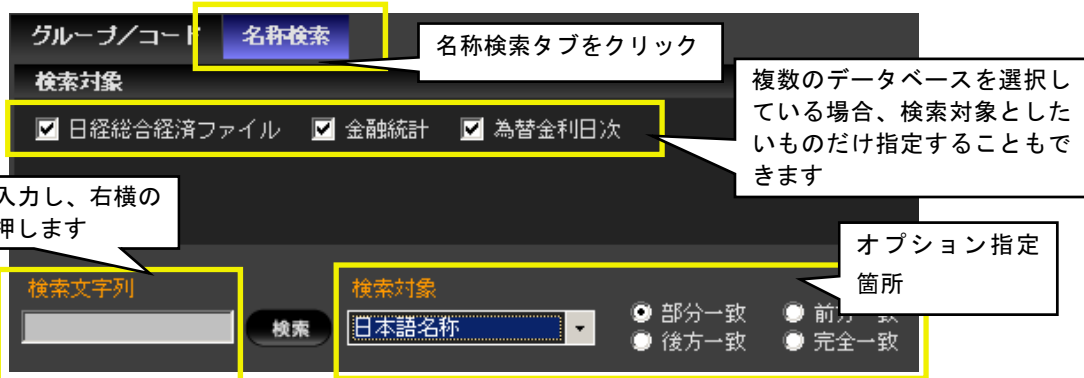
●項目リストの表示について

☐☐☐☐を押すと項目リストのエリアを横に広く表示することができます。項目名が長くて判読しにくい場合には、この機能を使うと便利です。



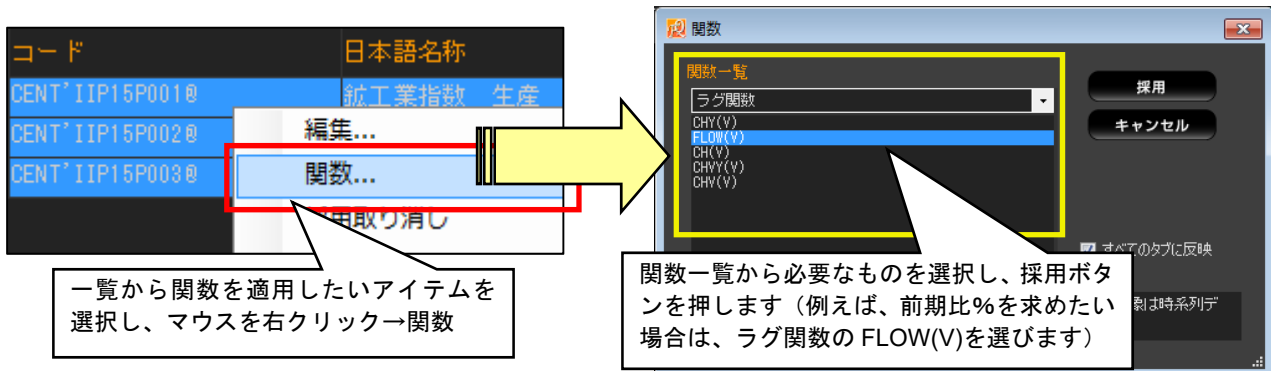
●アイテムの名称検索機能（詳細検索画面）

アイテム指定画面にある「名称検索」タブをクリックすると、キーワード検索を行うことができます。検索文字（日本語名称や英語名称など）や検索の方向（部分一致や前方一致など）はオプション一覧から指定します。また、複数のデータベースを採用している場合、検索対象とするデータベースを適宜選択することができます。



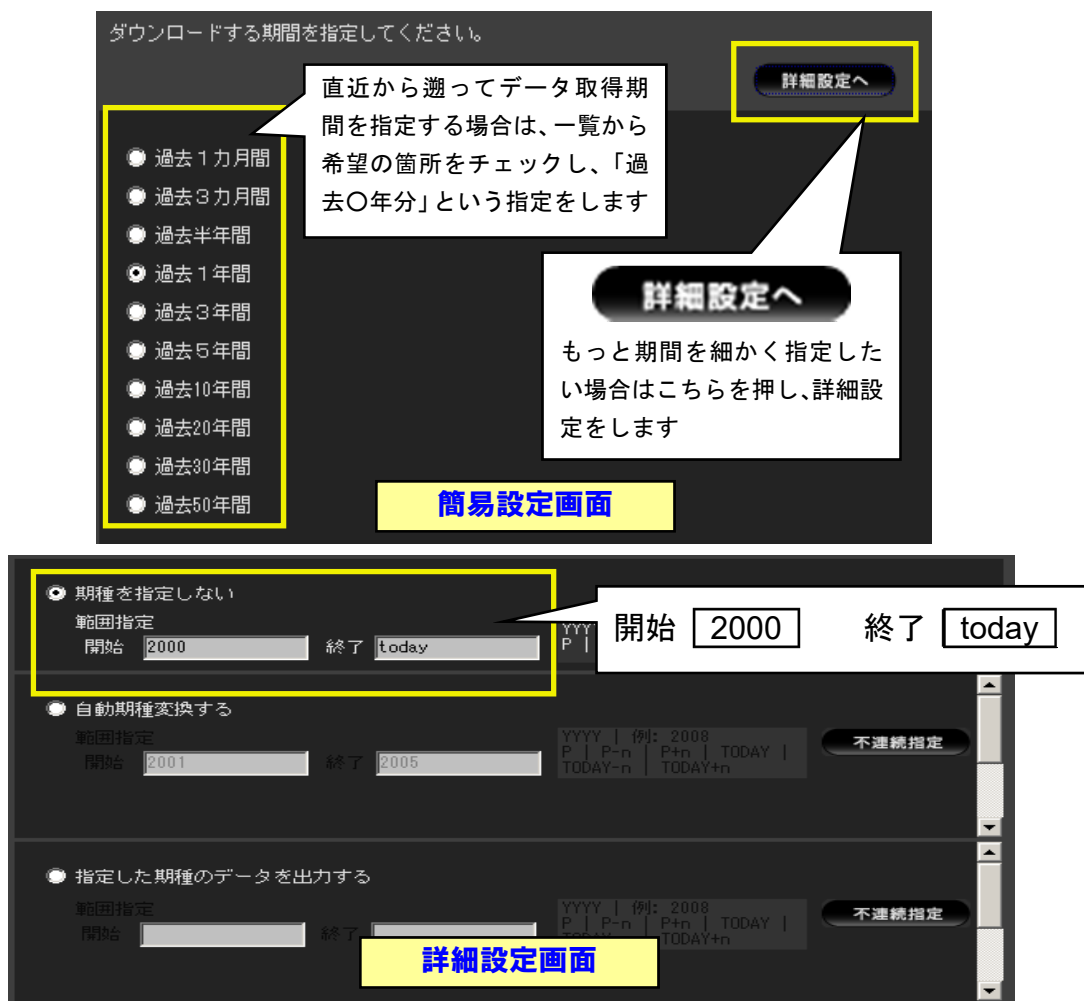
●関数の利用

採用したアイテムには関数を適用することが可能です。採用リスト一覧から該当アイテムを選択してマウスを右クリックし、メニューから「関数」を選びます。その後、利用可能な関数一覧から必要なものを選択し「採用」ボタンを押します。



(3) 期間の設定

期間の指定には「過去〇年間（カ月間）」という簡易指定方法と、詳細な設定方法の2通りが用意されています。ここでは「詳細設定へ」のボタンを押して詳細期間指定画面に移動したのち、画面上段の「期種を指定しない」から、開始「2000」、終了「today」と入力します（入力は半角です）。



▼ 期間の入力方法には、絶対期指定と相対期指定の2通りがあります。

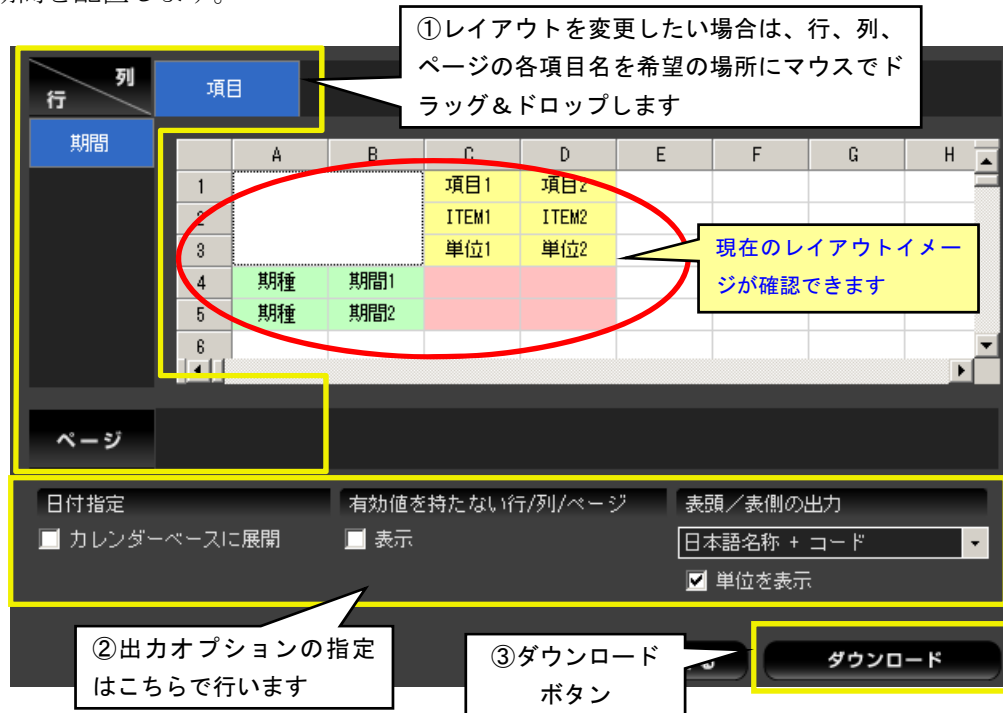
絶対期指定	YYYY や YYYYMM、あるいは YYYYMMDD で指定します。また、YYYY:n という指定も可能です（「n」は各年の n 番目の期という意味）。
相対期指定	現在を TODAY、そこから過去に遡る場合は n 期前を TODAY-n と表現します。TODAY の表記は半角であれば大文字、小文字は区別しません。また、TODAY 表記は絶対期指定と組み合わせることが可能です（例えば、開始期は絶対期、終了期は TODAY など）。 ※Pを使った相対期指定については、後述の「財務（短信・有報）データの取得」を参照下さい。

▼ また、画面上では期間指定のオプションを3つから選択することができます。

期種を指定しない	出力データの期種はデータベースが持つ最も短い期種に自動的に決まります。
自動期種変換する	指定した期種にデータを変換して出力します。例えば月次で収録しているデータに対しては、変換する期種を「四半期」「年次」「年度」のいずれかに変換できます。 ※マクロ経済データベースのみで選択できる機能です。大→小への期種変換はできません。
指定した期種のデータを入力する	指定した期種のデータをダウンロードします。データを取得できるのはデータベースが該当の期種を収録している場合のみで、データベースにない期種を指定したときに自動集計する機能はありません。 ※マクロ経済データベース等で選択できる機能です。

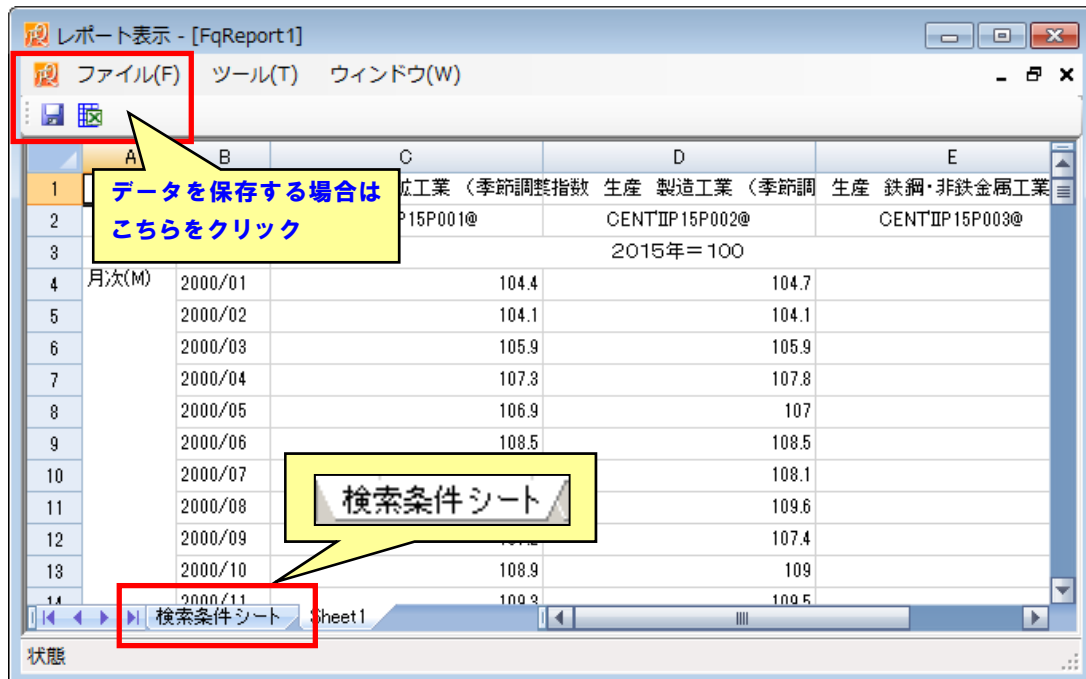
(4) ダウンロード画面

最後にデータの出力レイアウトを決め、「ダウンロード」ボタンを押します。行/列/ページの各要素の位置を入れ替える場合は、項目名をマウスでドラッグ&ドロップして移動します。ここでは列に項目、行に期間を配置します。



(5) データの出力

「ダウンロード」ボタンを押してからしばらくすると、確認画面が表示されたのちにデータが出力されます。データを Excel 形式のファイルで保存する場合は画面左上の「保存」アイコンを押すか、「ファイル」メニューから「保存 (Ctrl+S)」を選択して下さい。



出力ファイル左端の「検索条件シート」には取得データの条件が全て保存されており、既存のファイルを FQ で読み込みなおすと、検索条件を再現してデータを再取得できます。

※ 既存ファイルの再読み込み方法については、後述の章を参照して下さい。

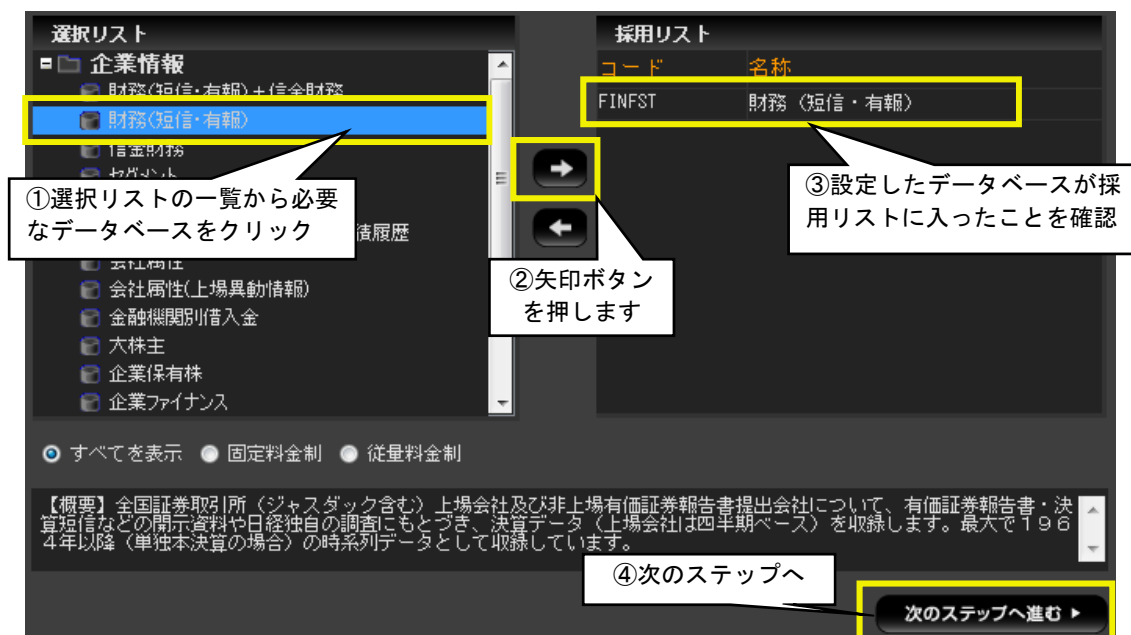
3. 詳細検索②：財務（短信・有報）データの検索事例

今回は「財務（短信・有報）」データベースを使った手順例をみていきます。ここではトヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業の過去 10 年分の連結ベース、本決算の損益計算書(期首からの累計期間)をダウンロードします。

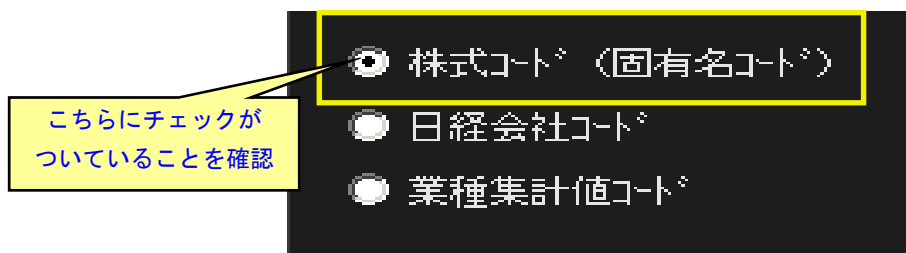
- | | |
|---------------|--|
| (1) データベースの指定 | 検索対象のデータベース「財務（短信・有報）」を選びます。 |
| (2) コード体系の指定 | ターゲットの指定に使うコード体系を選択します。 |
| (3) サブキーの指定 | 単独／連結、有報／短信、決算期/年度換算/業種集計、対象決算期を指定します。 |
| (4) ターゲットの指定 | 検索対象とするターゲット（トヨタ、日産、本田）を指定します。 |
| (5) アイテムの指定 | 検索対象とするアイテム（損益計算書(期首からの累計期間)）を選びます。 |
| (6) 期間の設定 | 取得するデータの期間を指定します。 |
| (7) ダウンロード画面 | レイアウトや出力オプションを調整して、データをダウンロードします。 |
| (8) データの出力 | データを出力します。 |

(1) データベースの指定

詳細検索画面のデータベース選択画面から、ジャンル別一覧の「企業情報」のツリーを開きます。選択リストから「財務（短信・有報）」データベースを選択し、「右矢印（→）」ボタンを押して採用リストにセットしたのち、「次のステップへ進む」ボタンを押して下さい。



(2) コード体系の指定



次の設定画面では、データ検索の際に、銘柄や企業などのターゲットをどのコード体系で指定するか選択します。ここでは「株式コード」を指定して「次のステップへ進む」ボタンを押します。

▼それぞれのコードの意味は以下のとおりです。

コード体系	意味
株式コード (固有名コード)	証券コード協議会が上場会社に付番しているコードです。4桁のコードで会社を指定します。現在取引所に上場している会社だけのデータを取得する場合はこちらを選択します（非上場会社は指定できません）。
日経会社コード	日本経済新聞社が NEEDS データベースに収録する会社が付番しているコードです。検索対象に非上場会社、上場廃止会社、倒産会社を含む場合は、必ずこちらの日経会社コードを選択して下さい。
業種集計値コード	日経業種分類により各会社のデータを業種別に合算した値を取得する場合に使うコードです。こちらを指定した場合は、次画面で表示される「サブキーの指定」（決算期／年度換算／業種集計）で、自動的に「業種集計値」が選択されます。

(3) サブキーの指定

The screenshot shows a dark-themed interface for specifying subkeys. It is divided into four sections, each with a '全て選択' (Select All) and '全てクリア' (Clear All) button. Section 'a' (単独/連結基準(11)) includes options for '単独決算' and various '連結決算' (IFRS, SEC, Japan) and '連結優先' (IFRS, SEC, Japan) settings. Section 'b' (有報/短信基準(3)) includes '有価証券報告書優先' and '有価証券報告書'. Section 'c' (決算期/年度換算/業種集計(3)) includes '決算期ベース', '年度換算', and '業種集計値'. Section 'd' (対象決算期) includes radio buttons for '本決算', '本決算+四半期決算', and '本決算+第2四半期(中間決算)'.

サブキーでは補助的な検索条件を指定します。財務データベースの場合、「単独/連結基準」「有報/短信基準」「決算期/年度換算値/業種集計値」「対象決算期」を指定しますが、初期設定で変更がなければ、そのまま次のステップへ進んで構いません。なお、各選択肢の詳細は以下のとおりです。

▼ a : 「単独/連結基準」

サブキーの設定	実際に出力される種類	単独決算	連結決算 (日本基準)	連結決算 (SEC基準)	連結決算 (IFRS基準)
単 独 決 算		◎			
連 結 決 算 (日 本 基 準)			◎		
連 結 決 算 (S E C 基 準)				◎	
連 結 決 算 (I F R S 基 準)					◎
連 結 決 算 (S E C 基 準 優 先)			②	①	
連 結 決 算 (I F R S 基 準 優 先)			③	②	①
連 結 優 先 (日 本 基 準)		②	①		
連 結 優 先 (S E C 基 準)		②		①	
連 結 優 先 (I F R S 基 準)		②			①
連 結 優 先 (S E C 基 準 優 先)		③	②	①	
連 結 優 先 (I F R S 基 準 優 先)		④	③	②	①

※ ◎印は該当するデータだけを検索することを意味し、①や②は数字が小さい順に検索することを意味します。「連結優先」を指定したときの連結、単独の選択は決算期ごとに行いますので、当期=連結、前期=単独を表示する場合もあります。これらのオプションは複数を選択し、単独と連結を同時に表示することも可能です。

▼ b:「有報／短信基準」

実際に出力される種類 サブキーの設定	有価証券報告書	決算短信
有価証券報告書優先	①	②
決算短信		◎
有価証券報告	◎	

※ ◎印は該当するデータだけを検索することを意味します。「有価証券報告書優先」を指定したときの有価証券報告書、決算短信の選択は決算期ごとに行いますので、当期=決算短信、前期=有価証券報告書を表示する場合もあります。これらのオプションを複数指定し、有価証券報告書と決算短信を同時に表示することも可能です。

▼ c:「決算期／年度換算／業種集計」

サブキーの設定	検索の内容
決算期ベース	各社の決算期に沿ったデータ
年度換算	各社の最新決算期（本決算）の決算月を基準とし、過去の決算期のデータを1年ごとに区切って合計し、12ヵ月に換算・算出したデータ
業種集計値	各証券取引所上場会社（ジャスダック上場企業、銀行・証券・保険を除く）で過去25期分（連結は1994年4月～）連続してデータ比較可能な会社を集計（年度換算値を集計）したもの

▼ d:「対象決算期」（◎のデータだけ検索します）

実際に出力される種類 サブキーの設定	本決算	四半期決算 (第1、3四半期)	中間決算 (第2四半期)
本決算	◎		
本決算+四半期決算	◎	◎	◎
本決算+第2四半期(中間決算)	◎		◎

(4) ターゲットの指定

①一覧から該当するグループを展開します

②リストから会社を選択

③採用ボタン

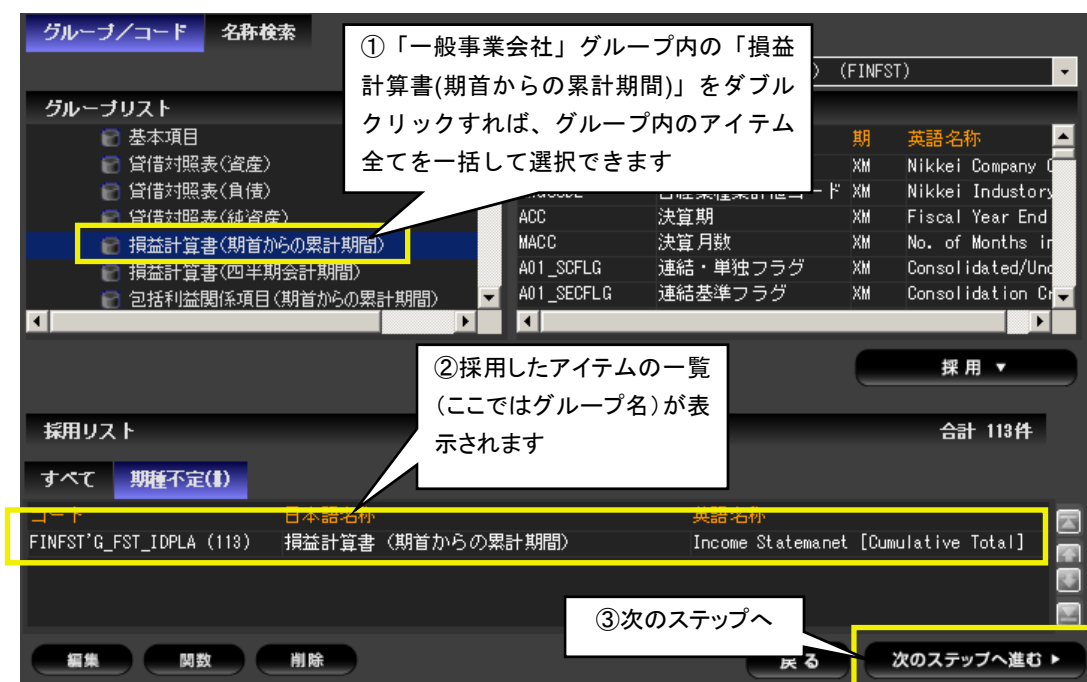
④選択した会社が「採用リスト」にセットされたことを確認

⑤次のステップへ

次に出力対象とする会社を選択します。ここでは画面左側の「グループリスト」で「業種分類」→「日経業種分類」→「製造業」→「自動車」→「自動車」とグループを展開（+マークをシングルクリックします）して、選択リストからトヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業の合計3社を採用して下さい。設定が完了したら「次のステップへ進む」ボタンを押します。

(5) アイテムの指定

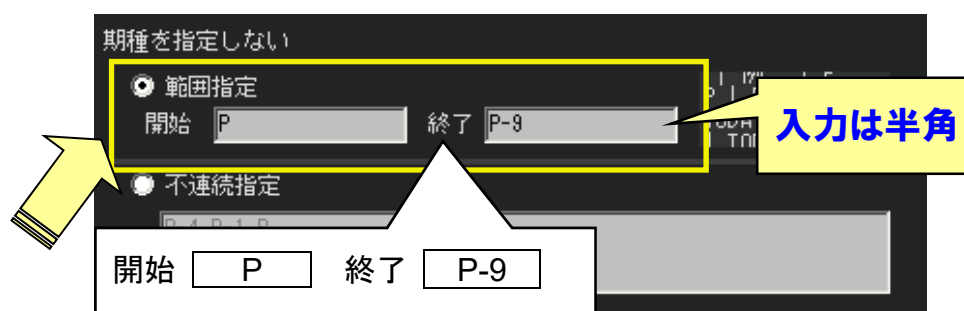
ここでは「損益計算書(期首からの累計期間)」グループ内でアイテム全てを採用します。画面左側のグループリストで「一般事業会社」内の「損益計算書(期首からの累計期間)」を選択したあと、グループをダブルクリックするか、右クリックメニューから「採用」とします。採用リストに「損益計算書(期首からの累計期間)」グループが設定できたことを確認して、次のステップへ進んで下さい。



※ 四半期決算で開示される3ヵ月のデータをダウンロードする場合は、(四半期会計期間)を選択します。例えば四半期決算で開示される3ヵ月の損益計算書データは、「損益計算書(四半期会計期間)」, 累計値のデータをダウンロードする場合は、「損益計算書(期首からの累計期間)」グループをそれぞれ選択して下さい。

(6) 期間の設定

ここでは、期間を詳細設定で指定します。期間指定画面の右上「詳細設定へ」ボタンをクリックして詳細期間設定画面にします。詳細期間設定画面の上段「範囲指定」で 開始 、終了 と入力し (直近～過去9期分=全部で10期分という意味)、次のステップに進みます。



▼ 期間の入力方法には、絶対期指定と相対期指定があります。

絶対期指定	YYYY や YYYYMM、あるいは YYYYMMDD で指定します。また、YYYY:n という指定も可能です (「n」は各年の n 番目の期という意味)。
相対期指定	直近 (実績の最新期) を P、そこから過去に遡って n 期前を P-n と記述します。予想は P+n と記述します。

▼ また、画面上では期間指定のオプションを2つから選択することができます。

期種を指定しない	ダウンロード期間だけを指定します。期種はデータベースが持つ最も短い期種に自動的に決まります。
不連続指定	ダウンロードするデータの時期を、個別に指定することができます。取得したいデータの日付等が複数ある場合は半角カンマ(,)で区切って指定します。

(7) ダウンロード画面

レイアウトを変更したい場合は、行、列、ページの各項目名を希望の場所にマウスでドラッグ&ドロップします

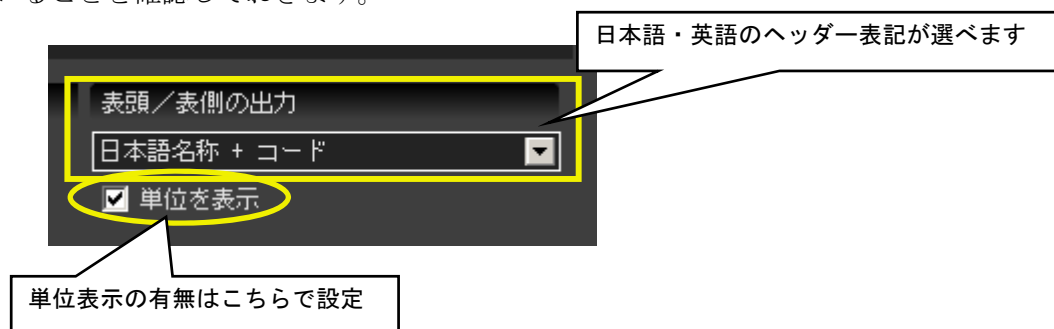
現在のレイアウトイメージが確認できます

出力オプションの指定はこちらで行います


最後にデータの出力レイアウトを決め、「ダウンロード」ボタンを押します。行/列/ページの表示設定を変更したい場合は、該当項目名をマウスでドラッグ&ドロップして移動します。

例えば「ページ」に設定されている会社を「列」にドラッグ&ドロップします。この設定では、すべての企業のデータが1枚のシートに収録されます

ヘッダーの出力形式は、画面右下のプルダウンメニューから変更することができます。出力の際の日本語・英語ヘッダーの切り替えなどはここから指定して下さい。また、「単位を表示」チェックボックスが付いていることを確認しておきます。



(8) データの出力

「ダウンロード」ボタンを押して、しばらくするとデータが出力されます。データを Excel 形式のファイルで保存する場合は画面左上の「保存」アイコン  を押すか、「ファイル」メニューから「保存 (Ctrl+S)」を選択して下さい。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									連結優先(IFRS優先)
2									C10
3									有価証券報告書優先
4									Y0
5									
6						P	P-1	P-2	P-3
7	決算期ベース	日経会社コード	FINFSTSTKNO'NKCODE	7桁コード		0001351	0001351	0001351	0001351
8		日経業種集計値コード	FINFSTSTKNO'NKCODE						
9		決算期	FINFSTSTKNO'ACC	年月		2017/03	2016/03	2015/03	2014/03
10		決算月数	FINFSTSTKNO'MACC	ヶ月		12	12	12	
11		連結・単独フラグ	FINFSTSTKNO'A01_SCFLG	1桁コード		2	2	2	2
12		連結基準フラグ	FINFSTSTKNO'A01_SECFLG			1	1	1	1
13		決算種別フラグ	FINFSTSTKNO'A01_HACC	2桁コード		10	10	10	10
14		短信収録フラグ:基本1	FINFSTSTKNO'A01_TRECFLG1			1	1	1	1
15		短信収録フラグ:基本2	FINFSTSTKNO'A01_TRECFLG2			1	1	1	1
16		短信収録フラグ:明細	FINFSTSTKNO'A01_TRECFLG3			1	1	1	1
17		有報収録フラグ:基本1	FINFSTSTKNO'A01_YRECFLG1	1桁コード		1	1	1	1
18		有報収録フラグ:基本2	FINFSTSTKNO'A01_YRECFLG2			1	1	1	1
19		有報収録フラグ:明細	FINFSTSTKNO'A01_YRECFLG3			1	1	1	1
20		有報収録完了フラグ(基本)	FINFSTSTKNO'A01_YBFINFLG			1	1	1	1
21		有報収録完了フラグ(明細)	FINFSTSTKNO'A01_YFINFLG			1	1	1	1
22		【IFRS】機能別/性質別分類フラグ	FINFSTSTKNO'D01147	コードブック参照		-	-	-	-
23		売上高:営業利益(累計)	FINFSTSTKNO'D01021			11790041	19180510	11975907	104895

※ ダウンロードの際、レポートウィンドウを経由せずに直接 Excel ヘッダー出力させることもできます。設定の詳細は画面左にあるナビゲーションのメニュー「環境設定」 - 「レポート出力」欄をご覧ください。

Ⅲ 詳細検索画面上の便利な機能

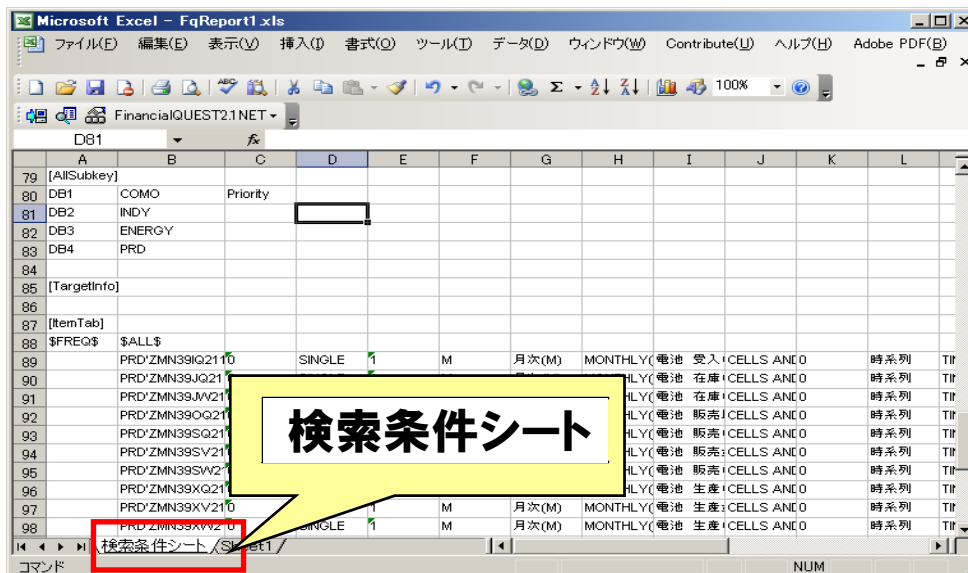
1. 検索条件シートの読み込み

過去に出力した検索条件シート付き Excel ファイルをもう一度 FQ で読み込むと、以前の検索条件を再現し、同じ設定で検索をやり直すことができます。定期的にも同じデータを取得する場合などに便利です。



(1) 検索条件シートとは

取得したレポートのうち、データ検索の各種設定を記載したシートです。レポート左下のシート見出しタブから左端の「検索条件シート」をクリックすると、選択したデータベースや取得対象のターゲット、アイテム等の条件が記載されていることがわかります。ダウンロードしたデータシートは検索条件シートの右側に出力されます。



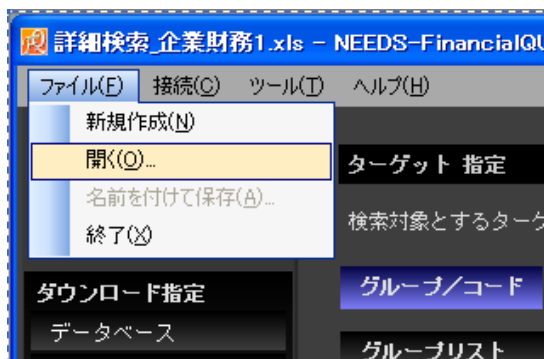
(2) 検索条件シートの保存方法

ダウンロードしたレポートには取得データのシートに加え、「検索条件シート」もあわせて出力されます。データを取得後、レポートウィンドウで「保存」ボタンを押すと、取得したデータと検索条件シートの両方を保存できます。

※ データとともに検索条件シートを出力するには「環境設定」メニューの「レポート出力」で、「条件シート出力」に必ずチェックを入れて下さい。

(3) 検索条件シートの読み込み、検索実行

検索条件シートを再読み込みする場合は、FQ画面のメニューから「ファイル」－「開く」として、該当のファイルを選択します。



ファイルを開くと既存の検索条件を自動的に読み込みながら、最後のダウンロード画面まで進みます。このとき、データの取得期間やターゲット・アイテムなどの条件は必要があれば変更可能です。適宜設定画面へ戻って変更したうえでデータをダウンロードして下さい。

※ Excel ファイルを FQ の画面上にドラッグ&ドロップしても検索条件シートを読み込むことができます。

※ 自動運転の記録中にファイルを開くと、シート内の検索条件を自動運転のスクリプトとして保存できます。

Excel ファイルを開いたとき、検索条件シートともに過去の出力データも表示するかどうかは「環境設定」の「ファイルの読み込み」で指定します。

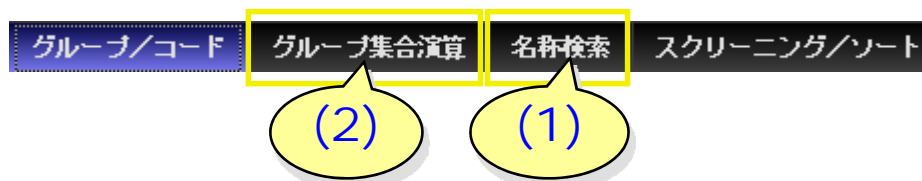
ファイルの読み込み

- 検索条件シートのみ読み込み データも読み込んで、レポートウィンドウで表示

※ 環境設定の変更については後述の「資料および設定の参照方法」を参考にして下さい。

2. ターゲット選択画面

詳細画面にはターゲットの指定方法が複数用意されています。それぞれの操作は該当するタブをクリックして行います。「グループ/コード」(ツリー一覧から選択していく方法) 以外には以下のような機能があります。



(1) ターゲットの名称検索

「名称検索」タブを開くと、キーワード入力による企業や銘柄の検索ができます。検索対象の言語(日本語、英語、コード)及び、検索条件(部分一致、前方一致、後方一致、完全一致)を選択し、キーワードを入れて検索して下さい。コードで検索する場合、対象となるのはコード体系指定画面で選択したもののみです。例えばコード体系指定画面で「株式コード」を選んだ場合、日経会社コードでの検索はできません。

ターゲット 指定

検索対象とするターゲットを選択し、採用リストに追加してください。

グループ/コード **グループ集合演算** **名称検索** スクリーニング/ソート

検索文字列 検索対象

日産 検索 日本語名称

部分一致 前方一致
 後方一致 完全一致

検索結果

全て選択 全てクリア

コード	日本語名称	英語名称
T3316	東京日産コンピュータシステム	TOKYO NISSAN COMPUTER SYSTEM
T4021	日産化学	NISSAN CHEMICAL
T7201	日産自動車	NISSAN MOTOR
T7222	日産車体	NISSAN SHATAI
T8291	日産東京販売ホールディングス	NISSAN TOKYO SALES HOLDINGS

5件 閉じる 採用

(2) グループ集合演算

「東証1部上場企業のうち日経業種分類が『自動車』の銘柄だけを抽出して検索したい」といった場合は、グループ集合演算機能を利用すると便利です。ターゲット選択画面で「グループ集合演算」タブを開くと設定画面が表示されますので、検索対象とする銘柄をグループのコード名と条件式で指定して下さい。

The screenshot illustrates the steps for using the Group Set Calculation feature. It shows a 'Group List' where '東証一部 全社' (Tokyo Stock Exchange 1st Section All Companies) is selected. This selection is then used to create a calculation formula 'TOKYO&MKT1 and MOTYE'. The 'and' operator is used to combine the group code with the industry code 'MOTYE'. The '採用' (Apply) button is then pressed to execute the calculation, resulting in a list of 12 companies.

①グループリストから「東証一部全社」を選び↓ボタンを押します

②and ボタンを押したのち、同様に自動車グループを指定します

③採用ボタンを押すと、対象企業を採用リストに指定することができます

個別の一覧を確認するときは「展開」ボタンを押します

コード	日本語名称	英語名称
TOKYO&MKT1 and M	東証一部 全社 and 自動車	Tokyo Stock Exchange 1st Secti

集合演算式を入力したあと、「採用」ボタンを押すと採用リストに対象企業が指定されます。採用ボタンを押す前に「展開」ボタンをクリックすると、該当企業の一覧が表示されますので、中から部分的に採用することも可能です。

▼ 利用可能な演算子一覧

A and B	AとBの共通要素を求める（積集合）
A or B	AとBを足し合わせる（和集合）
A not B	AからBの要素を除く（差集合）
()	括弧内の演算子は優先して処理します

▼ 入力例

東証1部上場企業	TOKYO&MKT1
東証1部に上場している自動車産業	TOKYO&MKT1 and MOTOR
東証1部上場企業とジャスダック上場企業	TOKYO&MKT1 or OTC
東証1部上場企業（銀行、証券、保険を除く）	TOKYO&MKT1 not (BANK or SECR or INSUR)

※ 式内に余分な括弧があると、式が正常に処理されない場合がありますのでご注意ください。

※ 演算子の優先順位は and > or | not | となります(orとnotは同じ優先順位で、左にあるものから処理されます)。

3. スクリーニング／ソート機能

「スクリーニング」機能とは、「東証1部上場企業のうち2020年末の株価終値が10,000円を超える銘柄」「東北地方で財政力指数が1以上の市」などの抽出条件を指定して、検索対象とするターゲット（銘柄や企業、自治体など）を絞り込む機能です。また、「ソート」機能を用いると、指定したアイテムの大きさをもとにして、ターゲットを昇順、降順に並べ替えることができます。

グループ/コード グループ集合演算 名称検索 **スクリーニング/ソート**

この機能を利用するには、ターゲット選択画面の「スクリーニング／ソート」タブをクリックします。

(1) スクリーニングの大まかな流れ

画面左上の「スクリーニング」ボタンをクリックすると、データを抽出するための条件入力画面が表示されます。以下の図では「東証1部上場企業のうち、『財務（短信・有報）』データベースに収録している直近の売上高が1兆円より大きい企業を抽出する」という条件を指定しています。

The screenshot shows the 'Screening/Sort' window. At the top, there are tabs for 'Screening' and 'Sort'. Below is a 'Target' dropdown menu with 'TOKYO&MKT1' selected. Under 'Condition Specification', there's a 'Group List' on the left and a 'Selected List' on the right. The 'Selected List' contains items like 'A01_YFINFLG', 'D01147', 'D01021', 'D01022', and 'D01023'. Below this is an 'Item Addition' field with the formula 'FINFST'D01021 > 1000000'. There are also 'Period Specification' fields for 'Period Type' (Monthly), 'Period' (P), and 'Date' (YYYYMM). A 'Screening Execution' button is at the bottom right. At the very bottom, there's a 'Wizard Start' button circled in yellow, with callout 'e' pointing to it. Other callouts 'a', 'b', 'c', and 'd' point to the target selection, the condition formula, the period specification, and the execution button respectively.

a	スクリーニング処理の対象となるターゲットの母集合を選択します。「Target」ボタンを押して表示されるグループ一覧から選択することも可能です。 ・・・ここでは『TOKYO&MKT1』（東証1部上場企業）を指定しています
b	抽出の条件を式の形で指定します。条件式は and、or、not の演算子を用いて複数同時に指定することも可能です。式に用いる項目名は上のグループリストから選択することができます。 ・・・ここでは『FINFST'D01021>1000000』（売上高>1兆円）と指定しています
c	スクリーニング対象となる時期を指定します。期の指定は絶対期でも相対期でも入力可能です。 ・・・ここでは『P』（直近期という意味の相対期指定）を入力しています
d	全ての条件を設定したら、『スクリーニング実行』ボタンを押します。
e	抽出結果に表示されたターゲットは一括して採用することもできますし、画面右下の「抽出結果表示」ボタンを押して個別の一覧をみながら部分的に採用することも可能です。

(2) スクリーニングウィザードの活用

スクリーニング抽出の条件を画面から全て自力で入力するのが困難な場合は、「スクリーニングウィザード」画面を利用すると比較的簡単に各種条件の設定ができて便利です。

スクリーニングウィザードの大まかな流れ

- a 「スクリーニングウィザード」ウィンドウを開く
- b スクリーニング処理の対象とするターゲットの母集合を選択
- c スクリーニング条件指定の際に使用するデータベースを選択
- d ターゲットの抽出条件を指定
- e スクリーニング処理で利用するデータの時期を指定
- f スクリーニングを実行
- g 処理結果を確認し、ターゲット指定画面に戻る

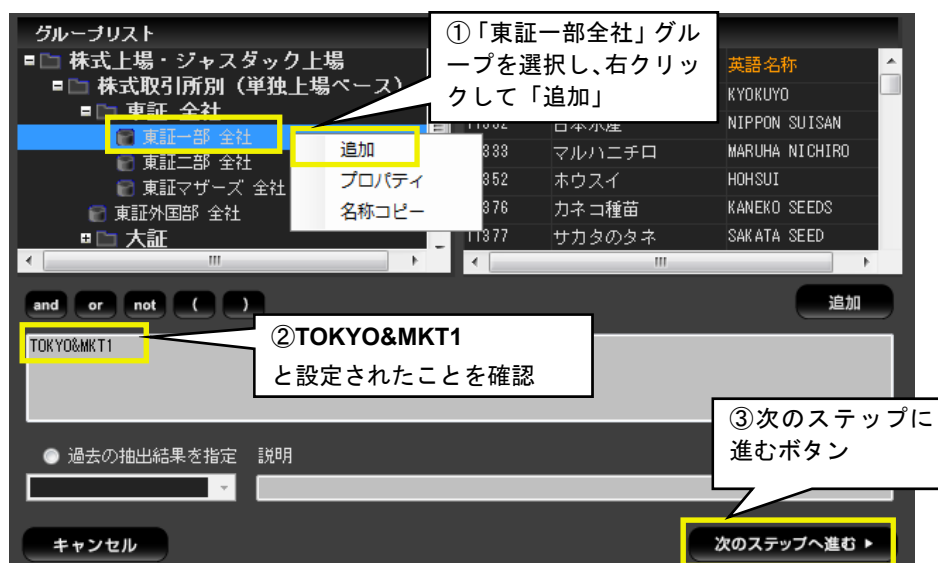
a. 「スクリーニングウィザード」ウィンドウを開く

「スクリーニング/ソート」画面右下の「ウィザード開始」ボタンを押し、利用画面を開きます。



b. スクリーニングの対象を選択

スクリーニング処理の対象とする母集合をグループリストから指定します。ここではリストから「株式上場・ジャスダック上場→株式取引所別（単独上場ベース）→「東証全社」とグループを展開し、「東証一部全社」をダブルクリックするか、マウスを右クリックして「追加」を選択します。

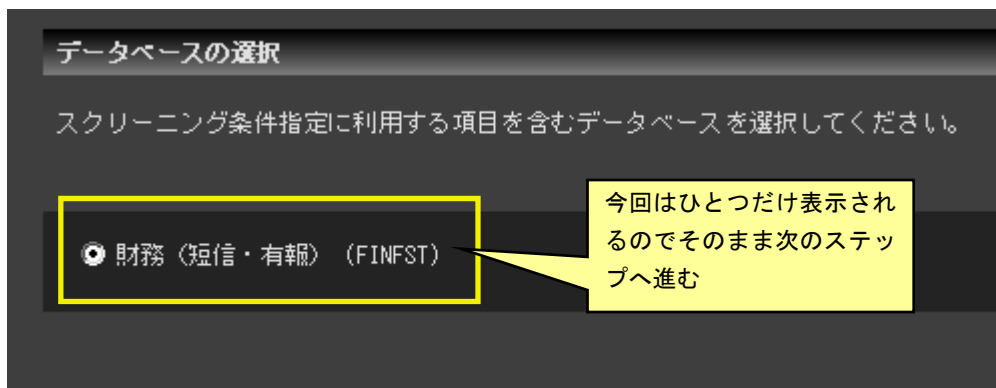


※ 母集合の指定では「and」や「or」を用いた演算も可能です(記述方法は前述「グループ集合演算」入力例と同じです)。

設定が完了したら「次のステップへ進む」ボタンを押します。

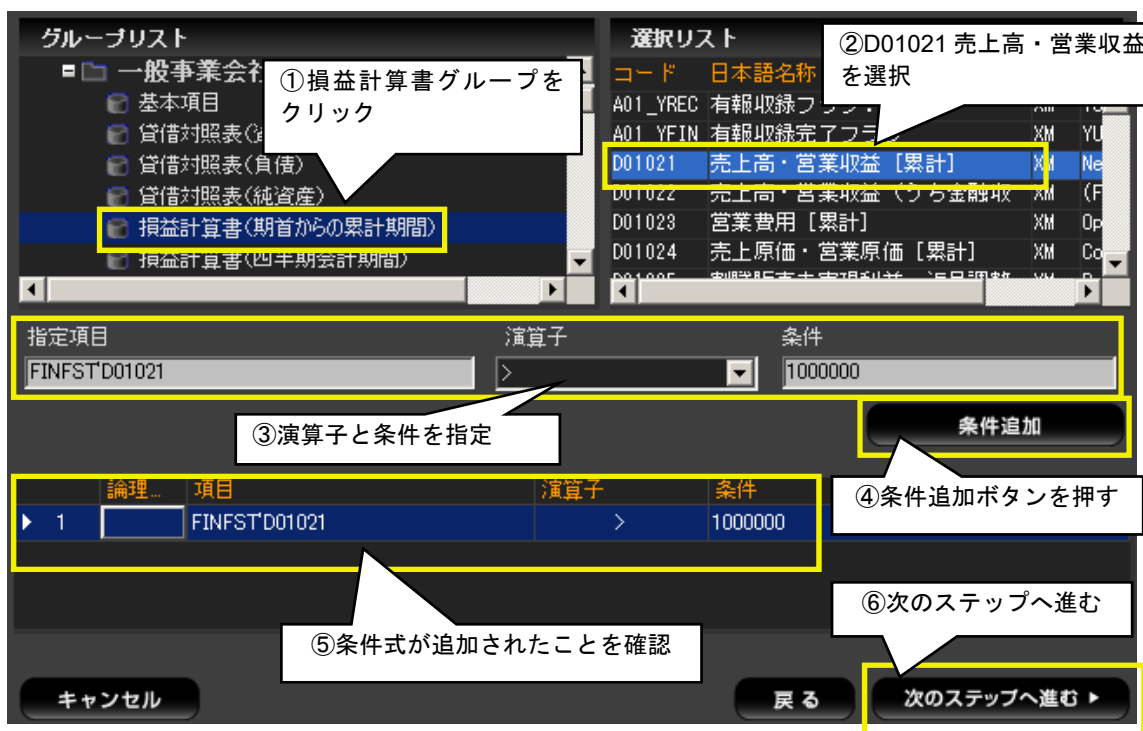
c. スクリーニング条件の指定に利用するデータベースを選択する

ここでは「データベース指定」画面で選択したデータベース一覧が表示されます。抽出条件の指定で利用するデータベースをひとつだけ選択します。



d. スクリーニング条件の指定

スクリーニングの条件式を指定します。例えば「売上高が 1 兆円より大きい」と設定する場合は、一般事業会社の損益計算書 (期首からの累計期間) グループをクリックし、選択リストから「D01021」をクリックして下さい。「指定項目」欄に売上高のアイテムが自動的に入りますので、あとは「演算子」を一覧から選択し (ここでは “>” とします)、条件欄には半角で数値を手入力で記述します (ここでは 1 兆円と指定するので百万円単位で「1000000」と入力します)。入力が終わったら、「条件追加」ボタンを押して下さい。



条件式の指定が完了したら、「次のステップへ進む」ボタンを押します。

● 複数の条件を指定する場合

条件式は必要に応じて複数追加していくことができます。2つ以上の条件を追加すると「論理演算」欄で and（積集合）または or（和集合）のどちらかが選択できるようになります（and と or の切り替えはクリックで行ってください）。

論理...	項目	演算子	条件
1	FINFST'D01021	>	100000
2	and		
	FINFST'D01029	>	100000

論理...	項目	演算子	条件
1	FINFST'D01021	>	100000
2	or		
	FINFST'D01029	>	100000

e. スクリーニング処理で利用するデータの時期を指定

ターゲットの抽出条件に使用するデータの期種、時期を指定します。期の指定は絶対期（YYYY は西暦、MM は月、DD は日を表します）または相対期入力が可能です。ここでは相対期指定の P（直近期）を入力します。

f. スクリーニング実行

期の指定を終えたら、「スクリーニング実行」ボタンを押して下さい。処理に問題がなければ、画面下部の「抽出結果一覧」にスクリーニング結果が追加されます。

g. 処理結果の確認（必要なターゲットを採用）

スクリーニング処理後のターゲット一覧は画面下の「抽出結果表示」ボタンを押して参照できます。（このとき、企業名を選択して「採用」ボタンを押すと、ターゲットを個別に採用することができます）

スクリーニングウィザード

NEEDS Financial QUEST

抽出実行

期を指定し、スクリーニングを実行して下さい。
抽出名、説明は変更可能です(抽出名は半角英数字です)。

条件式
FINFST'D01021 > 1000000

期の指定
期種 月次(M) 期 P

抽出名
抽出名 %SET1 説明 スクリーニング結果1

抽出結果一覧

件数	結果名	対象	説明	DB	条件式	期種	期
▶ 1	136 %SET1	TOKYO&M...	スクリーニング結...	FINFST	FINFST'D01021 > 1000000	月次(M)	P

閉じる

抽出結果表示

スクリーニング実行

①ここで期の指定を「P」とします

②全ての条件を設定後、実行ボタンを押します

③スクリーニング結果が表示されます

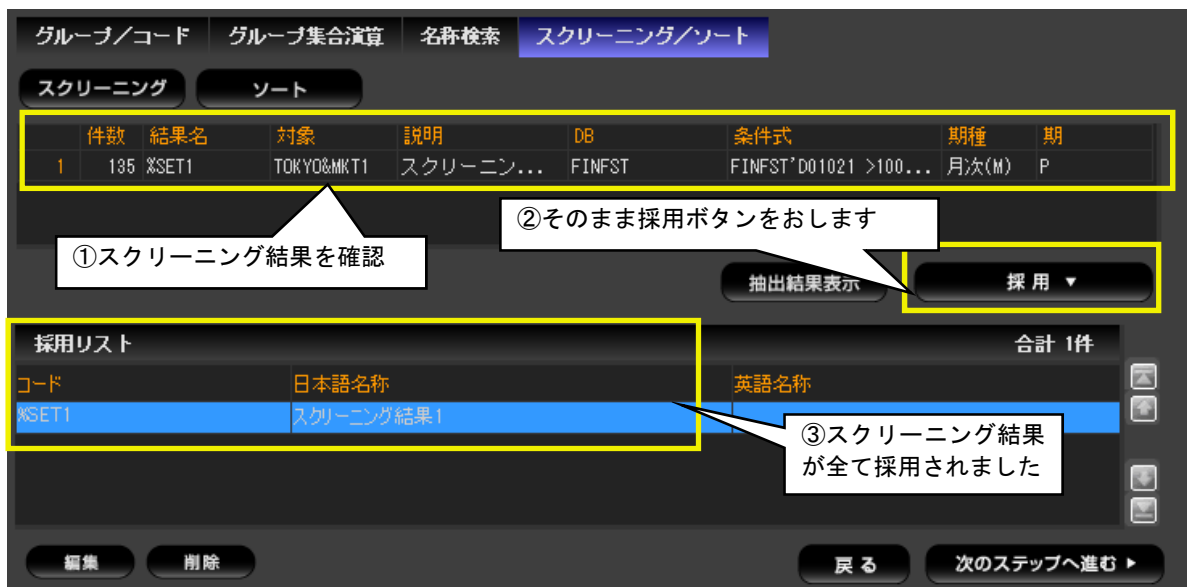
④結果の一覧を見るにはこちら(必要な企業だけを採用できます)

⑤抽出結果を一括して採用するとき、このまま画面を閉じます

④の抽出結果表示例



抽出結果を一括して採用したい場合は、そのまま「スクリーニングウィザード」ウィンドウと「スクリーニング/ソート」ウィンドウを「閉じる」ボタンを押して順番に閉じ、最初のターゲット指定画面に戻ります。



「スクリーニング/ソート」タブ内には結果一覧が表示されていますので、「採用」ボタンでリストに追加して下さい。採用リストには、スクリーニングで抽出された結果のグループがまとめて登録されます。

(3) データのソート機能

「ソート機能」とは、「日経平均採用銘柄を時価総額の多い順に並べ替えたい」「東証1部上場企業のうち当期純利益の上位10社をランキング形式で抽出したい」のように、指定した条件でターゲット（銘柄や企業、地域など）を並べ替える機能です。ソート機能はスクリーニングの抽出結果に対しても適用できます。ここでは先ほどのスクリーニング結果を大きい順に並べ替えてみます。



ソートタブをクリックすると、条件設定パネルが表示されます。ここでは先ほどスクリーニングの条件で用いた「損益計算書」グループの「売上高・営業利益」をダブルクリックし、「項目追加」欄に設定し、さらに「昇順」「降順」の指定、出力順位の指定を入力します（出力順位は省略可能です）。その後、ソート条件の対象となる期を入力し（ここではP）、「ソート実行」ボタンを押します。結果は件数のみが画面下欄に表示されますが、一覧を見る場合は「抽出結果表示」ボタンを押します。

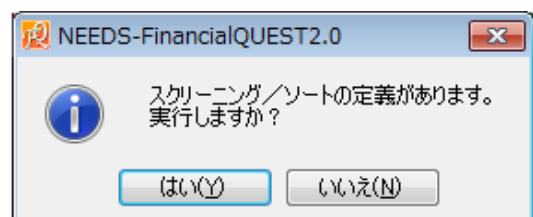


ソートした結果は、スクリーニング同様、個別あるいは一括して採用することができます。

●スクリーニング・ソート条件の再利用

スクリーニングやソートの機能を用いたデータ出力をすると、検索条件シートにはそれらの内容も記述されます。FQ画面でファイルの再読み込みをすると、右のようなメッセージが表示され、「はい」とすれば、同じ条件でスクリーニングを実行することができます。特にスクリーニング・ソート条件の「期の指定」で『P』（直近期）を入力していた場合には、その都度最新の直近期を対象としたスクリーニング・ソートが実行できて便利です。

※ この機能は、スクリーニング・ソート結果を一括して採用リストにセットした場合のみ有効です。



4. アイテム指定画面

(1) アイテムの検索

「名称検索」タブを開くと、キーワード入力によるアイテムの検索ができます。検索対象の言語（日本語、英語、コード）及び、検索条件（部分一致、前方一致、後方一致、完全一致）を選択し、キーワードを入れて検索して下さい（画像は日本語のキーワードを部分一致で検索した場合の結果です）。

グループ/コード **名称検索** 名称検索タブをクリック

検索対象

財務（短信・有報） 株式 検索対象とするDBを指定します

検索キーワードを入力し、オプションを確認したら「検索」ボタンを押します

検索文字列 検索対象

配当 **検索** 日本語名称

部分一致 前方一致
 後方一致 完全一致

データベースごとに結果の一覧が表示されます

検索結果

全て選択 全てクリア 検索中止

財務(短信・有報) (564件) 株式 (58件)

コード	日本語名称	英語名称
E31041	(その他利息・配当金)	Interest and Dividends on
D31041	(その他利息・配当金)	Interest and Dividends on
E01033	(受取配当金) [3ヵ月]	Dividends Income [Quarter
D01033	(受取配当金) [累計]	Dividends Income [Cumulat
L01019	(中間配当積立金積立額)	Provision of Interim Divi
L01033	(配当金)	Cash Dividend
L31033	(配当金)	Cash Dividends
L21050	(配当金)	Cash Dividends

622件 閉じる **採用** 必要な系列を一覧から選択し「採用」ボタンを押します

複数のデータベースを同時に検索している場合、アイテム検索画面の「検索対象」で複数にチェックを入れると、キーワードに合致するアイテムを複数のデータベースで同時に検索します。

(2) アイテムのプロパティ

右クリックメニューで「プロパティ」を選ぶと、アイテムのコードやデータ種別などの情報が表示されます。

選択リスト

コード	日本語名称
JPTDL00	円・ドル相場 銀行間
JPTDC00	円・ドル相場 銀行間
JPTDC00A	円・ドル相場 銀行間

採用
コピー
プロパティ...
収録状況表示...

アイテムプロパティ

コード JPTDC00

データベース名 為替金利日次 (IRF)

日本語名称 円・ドル相場 銀行間直物 17:00

英語名称 EXCHANGE RATE(TOKYO.INTERBANK.SPOT)-US J

属性

種別 時系列

型 数値型

単位 円/ドル

出典 日本経済新聞

集計法 期末

小数点以下桁数 3

更新周期

固定期種 期種 日次(D)

OK

(3) 収録状況の確認

① 収録状況表示

メニューバーの「ツール」メニュー、または右クリックメニューで「収録状況表示」を選択すると、データを収録している期間を開始期と終了期で表示します。「株式」や「財務（短信・有報）」などターゲット選択があるデータベースの場合は、収録期間を銘柄・企業ごとに表示できます。

サービスDB	漢字略称	コード	単独/連結基	有報/短信基準	決算期/年度	項目	コード	期種	開始期	終了期	DP
財務(短信・有報)	日産自動車	T7201	単独決算	有価証券報告書優先	決算期ベース	日経会社コード	NKCODE	決算月	1984/03	2017/03	
財務(短信・有報)	日産自動車	T7201	単独決算	有価証券報告書優先	年度換算	日経会社コード	NKCODE	決算月	1984/03	2017/03	
財務(短信・有報)	日産自動車	T7201	単独決算	決算短信	決算期ベース	日経会社コード	NKCODE	決算月	1984/03	2017/03	
財務(短信・有報)	日産自動車	T7201	単独決算	有価証券報告書	決算期ベース	日経会社コード	NKCODE	決算月	1984/03	2017/03	
財務(短信・有報)	日産自動車	T7201	単独決算	有価証券報告書	年度換算	日経会社コード	NKCODE	決算月	1984/03	2017/03	
財務(短信・有報)	日産自動車	T7201	連結決算(日)	有価証券報告書優先	決算期ベース	日経会社コード	NKCODE	決算月	1984/03	2017/03	
財務(短信・有報)	日産自動車	T7201	連結決算(日)	有価証券報告書優先	年度換算	日経会社コード	NKCODE	決算月	1984/03	2017/03	
財務(短信・有報)	日産自動車	T7201	連結決算(日)	決算短信	決算期ベース	日経会社コード	NKCODE	決算月	1984/03	2017/03	

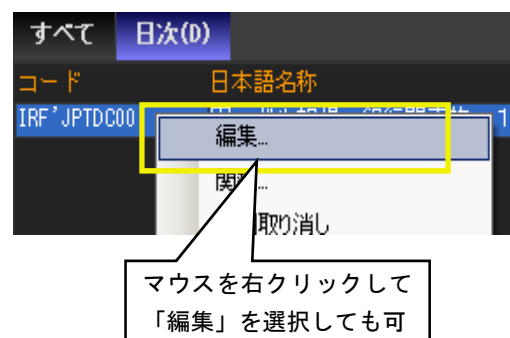
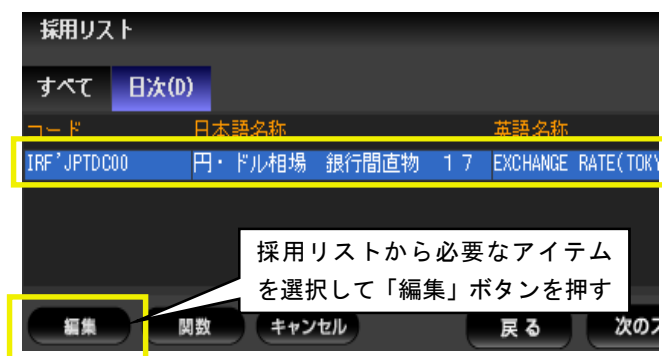
② 収録状況表示（全期間）

企業財務や国勢調査など、データを飛び期で収録しているデータベースの場合、「収録状況表示（全期間）」を選択すればデータ収録のある日付をすべて表示させることができます。例えば「国勢調査5歳刻み」データベースで全国の人口総数の収録状況を呼び出すと、データ日付欄に「1970,1975,1980,1985,1990,1995,2000,2005,2010,2015」と表示します。

サービスDB	地域名(コード)	項目	コード	期種	速報期	更新日	DP	データ日付
国勢調査5歳刻み	全国計	A99999	国勢調査人口	POPUP	年次(A)	2016/10/27	0	1970,1975,1980,1985,1990,1995,2000 2005,2010,2015

(4) アイテムコードの変更

採用リストに設定したアイテムコードを直接書き換えてオプションを変更するには、アイテムリスト一覧から該当する系列を選択して画面下部の「編集」ボタンを押すか、右クリックメニューから「編集」を選択します。



▼ 指定できるアイテムオプション

オプションの種類	入力例
期種変換時の集計方法の指定 ※自動期種変換機能を利用して、データを集計して出力する際の集計(変換)方法を指定できます。	<<AGC aaa>>アイテム名 (aaa には集計方法の指定が入ります)
小数点以下桁数の指定： ※データ取得時の小数点以下桁数を指定することが可能です	<<DOUP n>>アイテム名 (n には小数点以下桁数が入ります)

※ 集計方法指定、桁数指定のオプションはマクロ系データベースにのみ有効です。

▼ 期種変換時の集計方法の指定オプション

書式	意味	利用例
ASIS	無指定と同じ（あらかじめ系列ごとに定義された集計方法を適用）	<<AGC ASIS>>GDP
AVE	期間の平均値をとる	<<AGC AVE>>GDP
SUM	期間の合計値をとる	<<AGC SUM>>GDP
LAST	期間の期末値をとる	<<AGC LAST>>GDP
FIRST	期間の期初値をとる	<<AGC FIRST>>GDP
MAX	期間の最大値をとる	<<AGC MAX>>GDP
MIN	期間の最小値をとる	<<AGC MIN>>GDP



例えば円ドル相場終値（日次データ）を期種変換して月次データ作成する場合、集計方法を指定しなければ月次データは各月の最終営業日の終値に等しくなりますが、上記のように集計方法を平均に指定しておけば、各月のデータは日々終値の月間平均値になります。

● ITEM オプションと四則演算、関数の利用法

採用したアイテムには「関数」ボタンを使った計算値を適用したり、計算式を記述することもできます。また、アイテムオプションを計算式や関数で利用する場合は下記のように指定します。

種別	記述例
計算式	<<AGC AVE,DOUP 2>>E - <<AGC AVE,DOUP 2>>MP
関数	FLOW(<<AGC AVE,DOUP 3>>IRF'UKTD00CNK)

5. 季節調整の使い方

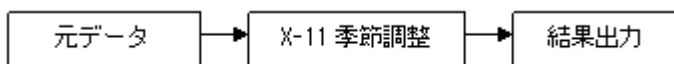
月次や四半期の経済統計データの中には、デパートの売り上げや夏場の電力需要といったように、季節的な要因で値が変化するものがあります。季節調整機能を使えば、「X-11」及び「X-12-ARIMA」の手法で季節性を除去したデータを作成し、ダウンロードすることができます。

(1) 季節調整の実行条件と利用可能な調整手法

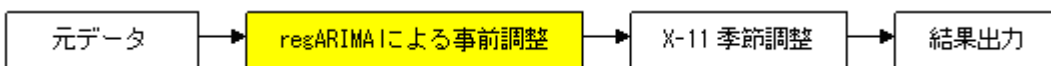
季節調整機能は「日経総合経済ファイル」や「消費・家計統計」など、FQ から取得可能な国内外のマクロ経済データでのみ利用可能です（「株式」や「企業財務」などの証券、財務系データベース、あるいは外部のデータでは利用できません）。対象データは、期種（データの更新頻度）が月次・四半期であるか、月次・四半期データに変換可能な時系列データであることが条件となります。

季節調整を行うデータの収録期間は最低 5 年分が必要です。安定した季節調整値を得るためには月次で約 7 年分、四半期で約 15 年分のデータが必要とされています。また、季節調整の手法としては以下の 2 つがご利用いただけます。

○X-11・・・X-11 方式による季節調整を実行します。

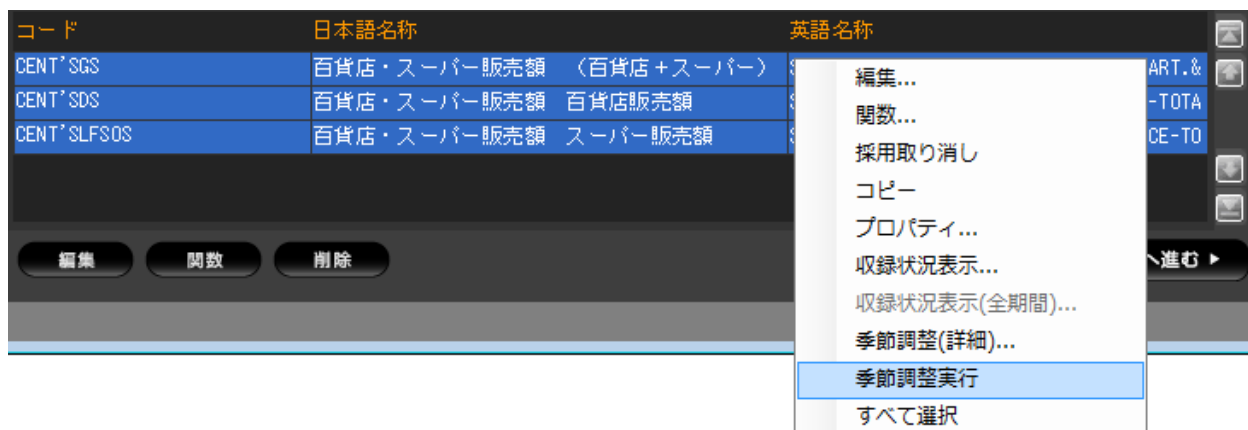


○X-12-ARIMA・・・regARIMA によるモデル推計と X-11 を併用する方式です。まず regARIMA による事前調整を行い、現時点までのデータをモデルにより調整した数値と将来の予測値をつなぎ合わせたデータを作成します。続いて X-11 を適用して季節調整値を算出します。X-11 単独と比べ、特に直近期ではより安定した季節調整値を出力できます。

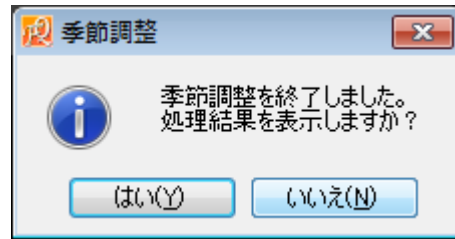
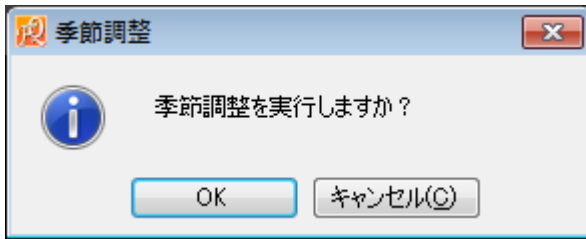


(2) 季節調整の利用手順①：デフォルトの調整方法をそのまま利用

アイテム指定画面の「選択リスト」または「採用リスト」で季節調整処理の対象とするアイテムを選択し（複数系列可）、右クリックメニューから「季節調整実行」を選びます。



※ この例では「日経総合経済ファイル」データベースの百貨店・スーパー販売額を選択しています。



実行確認のパネルが表示されますので「OK」とすると、自動的に季節調整が実施されます。処理結果の表示はテキスト形式で出力できますが、必要のない場合は次のパネルで「いいえ」として下さい。季節調整値のアイテムは自動的に採用リストにセットされますので、あとは通常のデータ取得同様、画面を進めて「期間」「レイアウト」などを指定したのち、データをダウンロードできます。

採用リスト 合計 6件

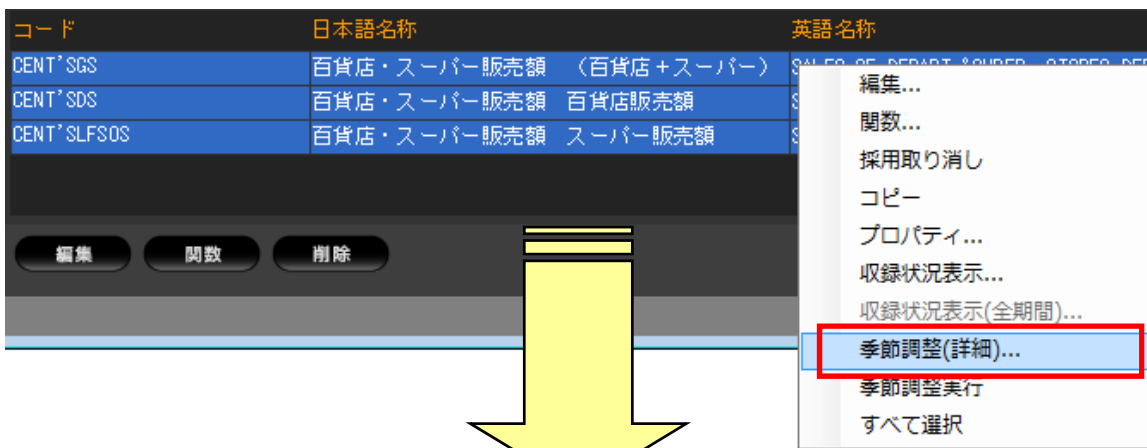
すべて **月次(M)**

コード 日本語名 季節調整済系列のコードは、元のアイテムコードの末尾に「@11」が付きます

コード	日本語名	英語名
CENT*SGS	百貨店・スーパー販売額	SALES OF DEPART.&SUPER. STORES-DEPART.&
CENT*SDS	百貨店・スーパー販売額	SALES OF DEPART.&SUPER.-DEPARTMENT-TOTA
CENT*SLFSOS	百貨店・スーパー販売額	SALES OF DEPART.&SUPER.-SELF SERVICE-TO
WORK*SGS@D11	百貨店・スーパー販売額 (百貨店+スーパー)販売額合計	SALES OF DEPART.&SUPER. STORES-DEPART.&
WORK*SDS@D11	百貨店・スーパー販売額 百貨店販売額 季節調整値	SALES OF DEPART.&SUPER.-DEPARTMENT-TOTA
WORK*SLFSOS@D11	百貨店・スーパー販売額 スーパー販売額 季節調整値	SALES OF DEPART.&SUPER.-SELF SERVICE-TO

(3) 季節調整の利用手順②：調整方法を独自に設定

調整方法のオプションなどを独自に設定したり、季節調整の期間や期種を変更する場合は、アイテム指定画面で対象アイテムを選択し（複数系列可）、右クリックメニューから「季節調整（詳細）」を選んで下さい。



季節調整の系列選択

季節調整の対象とするアイテムを選択してください。 全て選択 全てクリア 期種 月次 四半期

サービス DB	項目	コード	期種	開始期	終了期	速報期	更新日	DP
日経総合経済	百貨店・スーパー販売額	SGS	月次(M)	1971/07	2017/08	2017/08	2017/09/29	0
日経総合経済	百貨店・スーパー販売額	SDS	月次(M)	1986/01	2017/08	2017/08	2017/09/29	0
日経総合経済	百貨店・スーパー販売額	SLFSOS	月次(M)	1971/07	2017/08	2017/08	2017/09/29	0

1/1 (3) 戻る 次へ コピー キャンセル 決定

季節調整の系列を選択する画面が表示されるので、季節調整処理を行う上で十分な期間のデータが収録されているか確認したうえで、対象アイテムと期種（右上で指定）を指定し「決定」ボタンを押します。次に表示される設定画面で、各種条件を指定していきます。

設定画面

図 季節調整

X12-ARIMA条件設定
系列設定

コード	収録期間	季節調整期間	モデル推計期間	出力コード	小数桁数
1	CENTSGS	1971.7 TO 2017.8	1971.7 TO 2017.8	SGS	0
2	CENTSDS	1967.9 TO 2017.8	1967.9 TO 2017.8	SDS	0
3	CENTSLFSOS	1971.7 TO 2017.8	1971.7 TO 2017.8	SLFSOS	0

季節調整期間
 期間を設定 1971.7 TO 2017.8
 期種 月次
 出力コード SGS
 小数桁数 0

モデル推計期間
 期間を設定 1971.7 TO 2017.8

対数変換
 しない
 自動
 する

確定ボタン

RegARIMA

規定値 回帰変数設定 自己相関係数・偏自己相関係数出力

規定値 異常値探索設定

規定値 予測値設定 モデル推計

規定値 ARIMA次数

X11季節調整

規定値 X11設定

規定値 回帰変数設定 季節調整実行

規定値 安定性診断

結果

系列	コード	期種	期間	処理結果表示
1 百貨店・スーパー販売額 (百貨店+スーパー)販売額合計 季節調整値	SGS@D11	月次(M)	1971/07 TO 2017/08	<input checked="" type="checkbox"/> 採用
2 百貨店・スーパー販売額 百貨店販売額 季節調整値	SDS@D11	月次(M)	1967/09 TO 2017/08	<input type="checkbox"/> 表示設定
3 百貨店・スーパー販売額 スーパー販売額 季節調整値	SLFSOS@D11	月次(M)	1971/07 TO 2017/08	<input type="checkbox"/> 閉じる

採用ボタン

a. 系列設定

期間の変更や系列の対数変換などをここで指定します。設定を変更したあとは必ず「確定」ボタンを押して設定の変更を確定させて下さい。

※ X-11による季節調整ではregARIMAによる事前調整を行いませんので、「モデル推計期間」を変更しても季節調整後の値が変わることはありません。

b. 季節調整方法の設定

「RegARIMA」「X11 季節調整」の横にあるチェックを付けると、各種設定ボタンが押せるようになりますので、デフォルトの設定を独自に変更することができます。設定が終わったら「季節調整実行」ボタンを押して下さい。

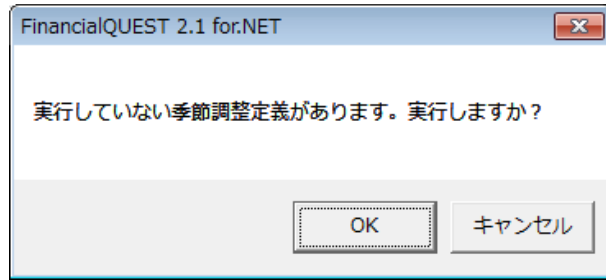
※ 各種設定の細かい内容については、FQの「使い方」に詳細がありますので、参照して下さい。

c. 出力結果の設定

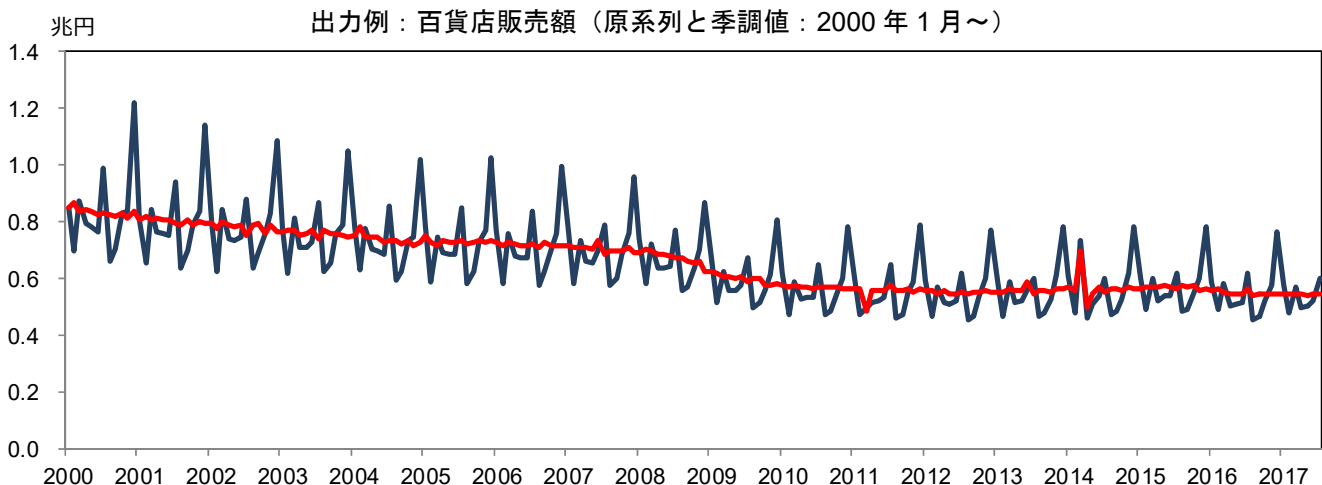
季節調整値が作成されると、画面下部の「結果」欄に系列名を表示します。データをダウンロード対象とするには、「採用」ボタンを押してアイテム選択画面の採用リストに追加して下さい。季節調整を終了するには右下の「閉じる」ボタンを押します。季節調整系列が採用リストにセットされていますので、あとは通常のデータ取得同様、画面を進めて「期間」「レイアウト」などを指定したのち、データをダウンロードします。

● **季節調整の条件を再読み込みする方法**

季節調整値を含むデータをダウンロードし、Excel 形式で保存した場合、検索条件シートには季節調整における各種条件設定も保存されています。ファイルを再度 FQ で読み込むと、ダウンロードボタンを押した後に右のようなメッセージが表示されますので「はい」を押すと再度同じ条件で季節調整値が計算されます。



また、元のデータの収録期間が延びていた場合には、上のような確認メッセージが表示されます。ここで期間指定を更新することによって、常に直近期を含めた季節調整値の作成とダウンロードを簡単に行うことができ便利です。ただし、この画面で延長できるのは季節調整期間のみです。データをダウンロードする期間は自動的に延長しませんので、あわせて期間指定画面でデータダウンロード期間を修正して下さい。



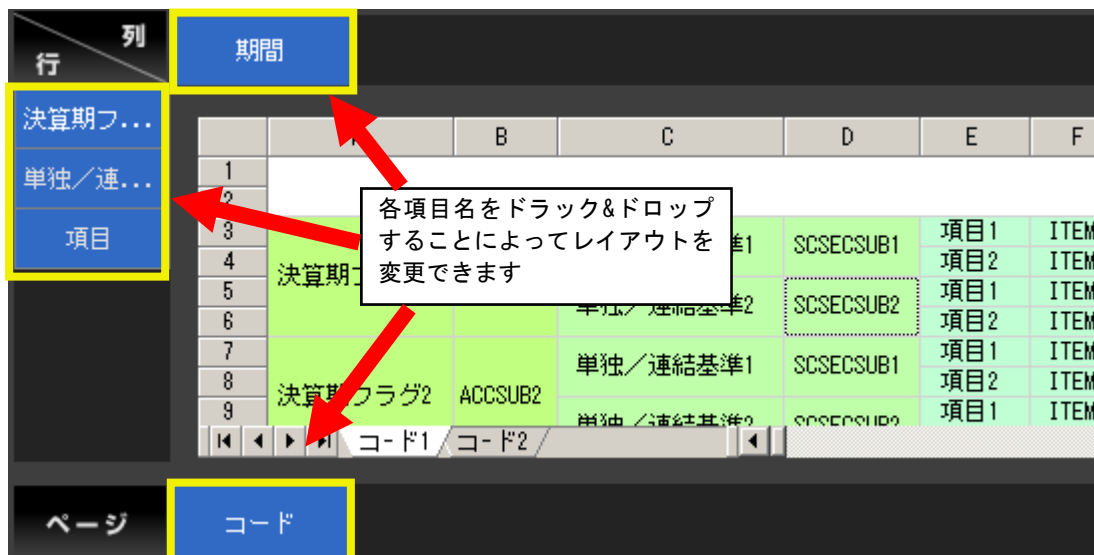
注) FQ からダウンロードした値を用いて Excel 上でグラフ化

- ※ FQ で提供する X-12-ARIMA は 2002 年 1 月に公開された、"Version 0.2.9 of the Final X-12-ARIMA seasonal adjustment program for Unix workstations"を利用しています。
- ※ X-12-ARIMA の詳細な解説は日本銀行の以下のページでもご覧になれます。
<http://www.boj.or.jp/statistics/outline/ref/ron9702c.htm/>

6. ダウンロード画面の設定項目

(1) レイアウトの調整

「ダウンロード」画面の中央に表示される出力イメージを参照しながら、ダウンロードするデータのレイアウトを決めます。行／列／ページの各要素は項目名をマウスでドラッグ&ドロップして移動することができます。



(2) 書式設定



[日付指定]

休日など、データが発生していない日も出力するか指定できます。株価や為替データなどで休場日を詰めて表示する場合は「カレンダーベースに展開」のチェックをオフにします。

[有効値を持たない行/列/ページ]

チェックをオフにすると、すべて空データ(欠損値 ND)となっている行(または列またはページ)を表示しないようにします。ただし、表示をオフにできるのはターゲットを割り当てているものと同じ軸に限られます。例えば下記のような例では、各銘柄が上場している取引所の列だけが表示されることになります。

ページにアイテム(項目)を配置		期間 1	期間 2	期間 3	期間 4
ターゲット (銘柄)	取引所 1				
	取引所 2				
	取引所 3				

[表頭/表側の出力]

出力したデータの表題、表側、ページタブに表示する項目名の種類を指定します。

「コード」「日本語名称」「日本語名称+コード」「コード+日本語名称」「英語名称」「英語名称+コード」「コード+英語名称」の7つの選択肢から用途に合ったものを選択して下さい。

「単位を表示」のチェックボックスをオンにすると、アイテムと同じ軸に単位名(「〇万円」「〇株」など)が表示されます。

(3) ダウンロードできるデータの制限

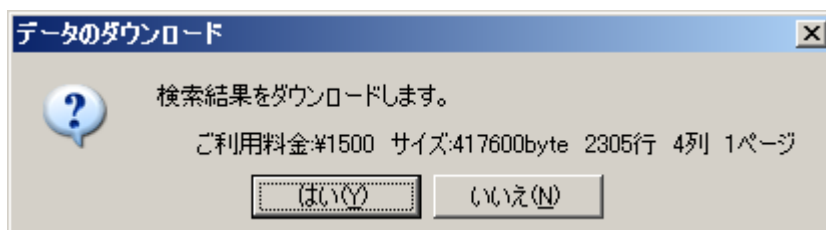
1 回当たりでダウンロードできるデータ量には、以下のような制限があります。制限を超えた場合は、対象となるターゲットやアイテム、期間を減らしたり、レイアウトを調整したうえで、再実行して下さい。

1 回で取得できるデータ量(P10 の再掲)

ターゲット数	20,000 個
アイテム数	2,000 個
期間数	10,000 期
ターゲット数×期間数	200,000 件
レポートの行数	16,000 行
レポートの列数	255 列
レポートのページ数	255 ページ
レポートのセル数	300,000 セル
1 回当たりの検索時間	30 分

(4) ダウンロード確認

「ダウンロード」ボタンを押すと以下のような確認画面が表示されます。従量料金のデータを取得する場合は、ここで金額も表示されます。利用するデータ量や料金を確認して「はい」を押して下さい。



7. 設定内容の一括確認

詳細検索画面から指定した各種条件の設定内容は、左メニューの「設定一覧」からまとめて確認することができます。

設定一覧

すべてのデータダウンロード設定を一覧表示します。

採用データベース

表示名	DBコード	コード体系	サブキー	設定内容
財務 (短信・有)	*FINFSTA	株式コード (固有)	単独/連結基準 有報/短信基準 決算期/年度換	連結優先 (IFRS優先) 有価証券報告書優先 決算期ベース

財務データの扱い

全てのデータダウンロード設定が一覧表示されます

採用ターゲット

コード	日本語名称	英語名称
T7201	日産自動車	NISSAN MOTOR
T7203	トヨタ自動車	TOYOTA MOTOR
T7207	本田技研工業	HONDA MOTOR

採用アイテム

すべて 期種不定(1)

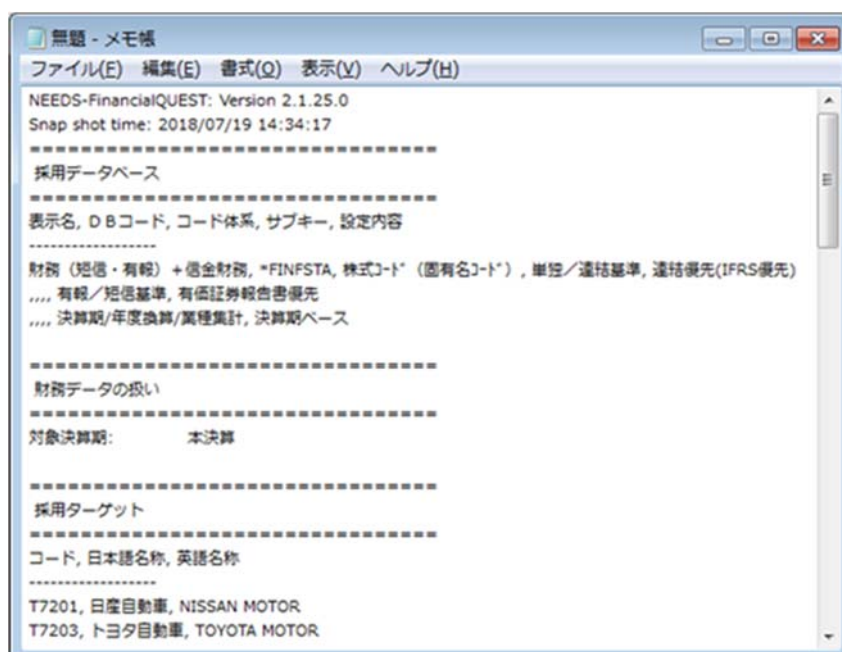
コード	日本語名称	英語名称
FINFSTA'G_FST_	損益計算書 (期首からの累計期間)	Income Statement [Cumulative Total]

クリップボードに出力

クリップボードに出力

また、画面右下の「クリップボードに出力」ボタンを押すと、表示されている全ての情報をクリップボードにコピーすることができます。記録したテキスト形式の情報は、メモ帳やワードなどに貼り付けることができます。

出力例：設定内容をメモ帳に貼り付け



8. 自動運転の使い方

「自動運転」とは、FQ の一連の操作をコマンド・スクリプトとして記録し、そのスクリプトを実行することで同一操作を自動で繰り返すことができる機能です。スクリプトは編集することで一部の検索条件を変更して実行することも可能です。

(1) 操作の記録

自動運転を利用する際は、詳細検索画面の「ツール」から「自動運転」を選択します。

記録されるコマンド

- データベースの選択
- コード体系の選択
- サブキーの選択
- ターゲット(企業や銘柄)指定
- アイテム(データ項目)指定
- 期間指定
- レイアウト等の指定
- ダウンロード

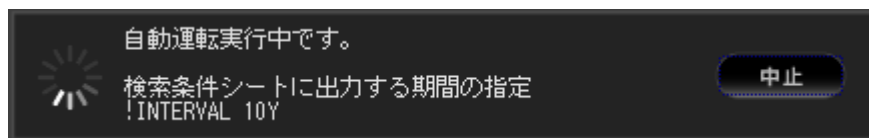
記録終了

画面から「記録開始」のボタンを押し、操作の記録を開始します（操作の記録中はステータスバーに「記録中：継続」と表示されます）。記録開始後は通常の商品検索と同様に、データベース指定からダウンロードまでの一連の操作を行うことで、操作内容が自動的にコマンドとして記録されます。記録を一時停止する場合は下欄の「一時停止」ボタン、操作が終了したら、「記録終了」ボタンを押します。記録した運転スクリプトは、「名前を付けて保存」ボタンを押して保存することが可能です。

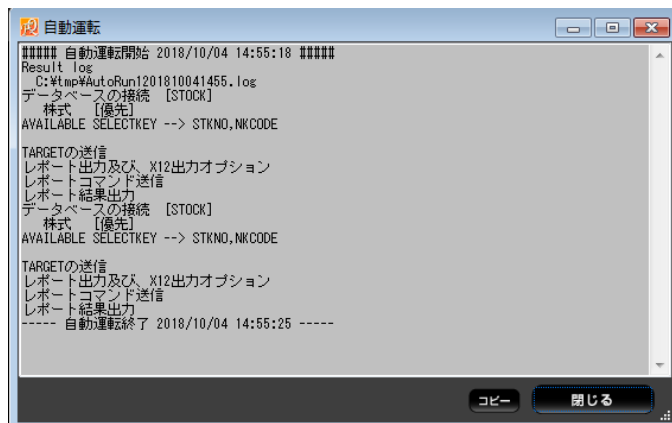
(2) 自動運転の実行

記録したコマンド・スクリプトを開いた状態で「自動運転実行」ボタンを押すと自動運転が開始されます。スクリプトに「一時停止」コマンドが含まれている場合、自動運転はその箇所で一旦停止します。再開するには再度「自動運転実行」ボタンを押して下さい。自動運転実行中にエラーが起きた場合、エラー内容は「自動運転」ウインドウに表示されます。

自動運転実行中の画面



自動運転終了時の画面



▼ 自動運転画面の機能ボタン

新規スクリプト	表示中のコマンドをすべて消去し、自動運転スクリプトを新規作成
スクリプトの読み込み	過去に保存したスクリプトを開きます（現在表示中の内容はクリア）
追加読み込み	保存されている別のスクリプトを呼び出し、作業中スクリプトの末尾に挿入
名前を付けて保存	編集中のスクリプトを新規保存
上書き保存	編集中のスクリプトを上書き保存
追加	選択した行の手前か、リストの末尾に手入力でスクリプトを追加（コマンドの編集ダイアログが開きます）
削除	選択した行のスクリプトを削除
編集	ポイントした行の内容を編集（編集ダイアログが開きます）
コピー	ポイントしている行の内容を、クリップボードにコピー（「貼り付け」を選ぶとコピーした内容を挿入します）
カット	ポイントしている行を削除（「貼り付け」で切り取った内容を挿入）
ペースト	クリップボードにコピーしている内容を、ポイントした行の直前に挿入
一時停止	一時停止行（ブレークポイント）を選択した行の手前に挿入

▼ 自動運転画面下部のアイコン

記録開始	自動運転する操作の記録を開始
記録一時停止	自動運転する操作の記録を停止（「記録開始」ボタンを押すと再開）
記録終了	自動運転操作の記録中にボタンを押すと記録を終了
自動運転実行	スクリプトを実行します（自動運転の開始）

※ スクリプトに操作を記録する際には、データベースの選択からデータの出力まで、すべてのステップを記録して下さい。すでにデータベースが選択されていたり、一部の検索条件が指定されている状態から記録をスタートすると、スクリプトにそれらの条件が記録されず、自動運転時にエラーとなります。

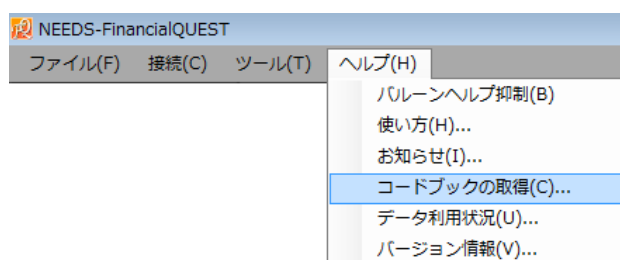
※ 自動運転終了時、データベースやターゲット、アイテム等の検索設定はクリアされます。

※ 自動運転中は、FQ 画面の操作およびスクリプトの変更はできません。（一時停止中はスクリプトの編集が可能です）

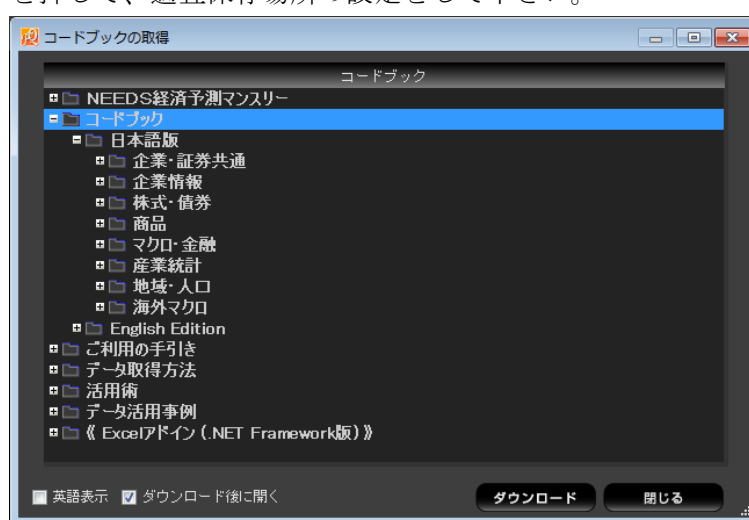
9. 資料および設定の参照方法（コードブック、使い方、環境設定）

(1) コードブックの取得方法

収録データの詳細やコードなどをあらかじめ確認しておきたいときは、コードブックを利用すると便利です。コードブックはデータベースごとに分かれており、収録系列のコード名や出典名、収録開始期などを閲覧することができます。ファイルは、PDF形式でダウンロードすることが可能です。



コードブックを取得するには、メニューの[ヘルプ]—[コードブックの取得]と進みます。詳細検索画面の左メニューからは[ツール]—[コードブックの取得]としても同様のパネルが表示されます。必要なファイルを選択し[ダウンロード]ボタンを押して、適宜保存場所の設定をして下さい。



※ コードブックファイルは PDF 形式ですので、閲覧するには別途 PDF ファイルを読むためのソフトがインストールされている必要があります。

コードブックの例(日経総合経済ファイル)

系 列 名	系列コード	収録初期年	AG
1. 国内総生産	GDP11N	1980. I	＃
1. 雇用者報酬	YW11N	1994. I	S
2. 営業余剰・混合所得	OS11N	＃	＃
3. 固定資本減耗	DQ11N	＃	＃
4. 生産・輸入品に課される税	TI11N	＃	＃
5. (控除) 補助金	SB11N	＃	＃
6. 統計上の不突合	SD11N	＃	＃

(2) 使い方（ヘルプ）の参照方法

FQ ではヘルプ画面を見ながら機能別詳細などを参照することができます。下図のように、簡易検索画面では、メニューの一番下に、詳細検索画面では、メニューの[お知らせ]ー[使い方]をそれぞれクリックすると、使い方の画面が開きます。あとはメニューの一覧から確認したい項目をクリックすれば、解説画面が表示されます。



「使い方」の画面

(3) 環境設定の確認方法

環境設定画面からは、画面の言語形式やダウンロード時の各種オプションをユーザが自由に変更できます。



▼ 主要な設定項目

ダウンロード時の確認	データダウンロードの前に、利用料金やファイルサイズの確認を表示するか指定します。
言語	画面メニューや、ターゲット／アイテム一覧の表示言語を選択します。設定後、FQを再起動すると変更内容が有効になります。
ファイルの読み込み	過去にFQからダウンロード→保存したExcelファイルを再読み込みする際の動作を指定します。
レポート出力	ダウンロードしたデータの出力先と、検索条件シート出力の有無を指定します。

※ 上記以外にも、環境設定画面からは、エディタ、通信設定、SSL通信やProxyの設定などを行うことができます。それぞれの詳細についてはFQの使い方などを参照して下さい。

データベース一覧

マイクロデータベース

<<企業情報>>

● 財務(短信・有報)+信金財務(FINFSTA)、財務(短信・有報)(FINFST)、信金財務(FINFSTK)

■一般事業会社

【収録開始期】

<決算短信データ>

[上場会社]連結本決算 1988.10 期～ 連結中間決算 1998.9 期～ 連結四半期決算 2002.6 第 1 四半期～ 単独本決算 1990.12 期～ 単独中間決算 1990.11 期～ 単独四半期決算 2002.6 第 1 四半期～ [ジャスダック上場会社]連結本決算 1994.1 期～ 連結中間決算 1998.9 期～ 連結四半期決算 2002.6 第 1 四半期～ 単独本決算 1994.1 期～ 単独中間決算 1994.1 期～ 単独四半期決算 2002.6 第 1 四半期～

<有価証券報告書データ>

[上場会社]連結本決算 1984.3 期～ 連結中間決算 2000.9 期～ 連結四半期決算 2008.6 第 1 四半期～ 単独本決算 1964.4 期～ 単独中間決算 1975.4 期～ 単独四半期決算 2008.6 第 1 四半期～ [ジャスダック上場会社]連結本決算 1984.3 期～ 連結中間決算 2000.9 期～ 連結四半期決算 2008.6 第 1 四半期～ 単独本決算 1977.4 期～ 単独中間決算 1995.4 期～ 単独四半期決算 2008.6 第 1 四半期～

[非上場有価証券報告書提出会社]連結本決算 1984.3 期～ 単独本決算 1977.4 期～

【TARGET】国内証券取引所上場会社、有報提出会社、有力非公開企業。TARGET コードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

※上場会社の非上場子会社のうち、親会社の決算短信(四半期決算短信)・有価証券報告書(四半期報告書)等で財務諸表等が開示されている会社(上場廃止含む)、上場予定会社のデータも収録。

【ITEM】財務項目(貸借対照表、損益計算書、CF 計算書、明細項目等)の原データ。有価証券報告書(四半期報告書)や決算短信(四半期決算短信)、決算発表資料等の開示資料及び調査表から収集したデータを収録。

【更新タイミング】

<決算短信(四半期決算短信)>基本項目は原則、決算発表当日。18 時以降の開示分は原則、翌営業日。明細項目は原則、決算発表翌日。基本項目・明細項目とも開示社数が多い場合は、2-3 営業日遅れることがある。

<有価証券報告書(四半期報告書)>基本項目は原則、有価証券報告書(四半期報告書)提出の翌日。明細項目は原則、有価証券報告書(四半期報告書)提出 3 営業日後。基本項目・明細項目とも有価証券報告書等の開示社数が多い場合は、上記以上の期間を要することがある。

<日経独自調査項目 その他の情報ソース>本決算は期末から 4 か月以内。四半期決算は期末から 3 か月以内。

<日経独自調査の単独四半期決算データ>本決算は期末から 4 か月以内。四半期決算は期末から 3 か月以内。

※財務(短信・有報)は一般事業会社、銀行、証券、保険のデータ、信金財務は信用金庫データを収録。

■金融機関

【収録開始期】

[銀行]

<決算短信データ>連結本決算 1995.3 期～ 連結中間決算 1997.9 期～連結四半期決算 2002.6～

単独本決算 1993.3 期～ 単独中間決算 1993.9 期～ 単独四半期決算 2002.6～

<有価証券報告書データ>連結本決算 2000.3 期～ 連結中間決算 2001.9 期～

連結四半期決算 2008.6～ 単独本決算 1974.9 期～ 単独中間決算 2001.9 期～ 単独四半期決算 2008.6～

[証券]

<決算短信データ>連結本決算 1995.3 期～ 連結中間決算 1997.9 期～ 連結四半期決算 2002.6～ 単独本決算 1993.3 期～ 単独中間決算 1993.9 期～ 単独四半期決算 2002.6～

<有価証券報告書データ>連結本決算 2000.3 期～ 連結中間決算 2001.9 期～

連結四半期決算 2008.6～ 単独本決算 1983.9 期～ 単独中間決算 2001.9 期～ 単独四半期決算 2008.6～

[保険]

<決算短信データ>連結本決算 1996.3 期～ 連結中間決算 2000.9 期～ 連結四半期決算 2002.6～ 単独本決算 1993.3 期～ 単独中間決算 2000.9 期～ 単独四半期決算 2002.12 期～

<有価証券報告書データ>連結本決算 2000.3 期～ 連結中間決算 2001.9 期～

連結四半期決算 2008.6～ 単独本決算 1983.3 期～ 単独中間決算 2001.9 期～ 単独四半期決算 2008.6～

【TARGET】有価証券報告書を提出している銀行、証券会社、損害保険会社。TARGET コードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

※上場会社の非上場子会社のうち、親会社の決算短信(四半期決算短信)・有価証券報告書(四半期報告書)等で財務諸表等が開示されている会社(上場廃止含む)、上場予定会社のデータも収録。

【ITEM】財務項目(貸借対照表、損益計算書、CF 計算書、明細項目等)。有価証券報告書(四半期報告書)や決算短信(四半期決算短信)、決算発表資料等の開示資料及び調査表から収集したデータを収録。

【更新タイミング】

<決算短信(四半期決算短信)>基本項目は原則、決算発表当日。18 時以降の開示分は原則、翌営業日。明細項目は原則、決算発表翌日。基本項目・明細項目とも開示社数が多い場合は、2-3 営業日遅れることがある。

<有価証券報告書(四半期報告書)>基本項目は原則、有価証券報告書(四半期報告書)提出の翌日。明細項目は原則、有価証券報告書(四半期報告書)提出から3営業日以内。基本項目・明細項目とも開示社数が多い場合は、上記以上の期間を要することがある。

<日経独自調査項目 その他の情報ソース>本決算は期末から4か月以内。四半期決算は期末から3か月以内。

<日経独自調査の単独四半期決算データ>本決算は期末から4か月以内。四半期決算は期末から3か月以内。

※財務(短信・有報)は一般事業会社、銀行、証券、保険のデータ、信金財務は信用金庫データを収録。

■信用金庫

【収録開始期】2002.3期～

【TARGET】全国約300信用金庫。TARGETコードは日経会社コード。

【ITEM】<信用金庫>信用金庫法、金融再生法に基づき開示された決算開示資料をもとに収録。

【更新タイミング】決算期末から5か月後の月中。

※財務(短信・有報)は一般事業会社、銀行、証券、保険のデータ、信金財務は信用金庫データを収録。

●セグメント(FINSEGA)

【収録開始期】連結本決算1988.5期～ 連結四半期決算1997.5期～

単独本決算2011.3期～ 単独四半期決算2010.6期～

【TARGET】<決算短信>国内証券取引所上場会社(上場廃止含む)。上場予定会社のうち、決算短信でセグメント情報を開示する会社。

<有価証券報告書(四半期報告書)>国内証券取引所上場会社。

(ただし銀行、証券、保険は除く)。TARGETコードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】有価証券報告書(四半期報告書)及び決算短信(本決算のみ)で開示される事業別、所在地別、海外売上高セグメント情報および報告セグメント情報を収録。事業別セグメント情報には日本標準産業分類コード、所在地別および海外売上高セグメント情報には、日経地域コードも併せて収録。

【更新タイミング】

<決算短信(本決算のみ)>原則、決算発表から3営業日以内。開示社数が多い場合、更新に日数を要することがある。

<有価証券報告書(四半期報告書)>原則、有価証券報告書(四半期報告書)提出後6営業日以内。開示社数が多い場合は、更新にさらに日数を要することがある。

※決算短信情報は、有価証券報告書情報で上書きされる。

※第1、第2、第3四半期は、有価証券報告書(四半期報告書)ベースでの収録。

●業績予想(EARNING)

【収録開始期】実績1989.1期～ 予想1994.1期～

【TARGET】過去及び現在における国内証券取引所上場会社。TARGETコードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】日経の記者による売上高、営業利益、経常利益、当期利益、配当金などの予想データと実績データ、および配当落ち日、株主総会日など。

【更新タイミング】原則、決算発表日の翌日。新規上場会社は公開当日。

●業績予想(会社発表)+決算実績履歴(FINHISA)、業績予想(会社発表)(FINHISE)、決算実績履歴(FINHISR)

【収録開始期】<業績予想(会社発表)>〔予想データ〕1997.1期～ 〔実績データ〕1997.1期～

<決算実績履歴>2008.3期～

【TARGET】<業績予想(会社発表)>国内証券取引所上場会社、及び決算短信等で実績データや予想データが開示されている上場会社の非上場子会社や上場予定会社(上場廃止含む)。TARGETコードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】企業が発表した決算短信や業績修正リリースなどから、売上高、経常利益などの収益動向(予想・実績)を収録。

【更新タイミング】原則、発表当日。

●会社属性(CORPORATE)

【収録開始期】最新の情報を収録。

【TARGET】国内証券取引所上場会社(上場廃止含む)、有報提出会社、有力非公開企業。TARGETコードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】正式商号、住所、株式コード、上場情報等の会社属性。発表時点での先取り属性情報。

【更新タイミング】日次

●会社属性(上場異動情報)(CORPSECMKT)

【収録開始期】1949～

【TARGET】国内証券取引所上場会社(上場廃止含む)。TARGETコードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】時系列の上場(廃止)日付。

【更新タイミング】日次。

●金融機関別借入金(LOANS)

【収録開始期】1977.4期～

【TARGET】国内証券取引所上場会社(上場廃止含む)。(銀行、保険を除く)。TARGETコードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】金融機関別の長・短期借入金を収録。企業への調査表または有価証券報告書をもとに収録。

【更新タイミング】原則、決算期末から5か月後の月初第2営業日。

●大株主(MSHHLDR)

【収録開始期】2001.3期以降の本決算、2001.9期以降の中間決算

【TARGET】国内証券取引所上場会社(上場廃止含む)。TARGET コードは 日経会社コード、株式コード(固有名コード)。
【ITEM】上位 30 位までの大株主の名前(公開会社、主要金融機関は日経会社コード付)、住所、所有株式数、持ち株比率。
当該会社の特定株比率、浮動株比率など。

【更新タイミング】原則、決算期末から 4 か月後の月初第 4 営業日。

● **企業保有株(HOLDSTK)**

【収録開始期】1985.10 期～

【TARGET】国内証券取引所上場会社(上場廃止含む)、非上場有報提出会社(銀行、証券、保険を除く)。TARGET コードは日経会社コードあるいは株式コード(固有名コード)。非上場有報提出会社は 2000.3 期以降更新停止。

【ITEM】一時保有有価証券、投資有価証券の簿価と株式数など(関係会社有価証券は 2000.3 期以降更新停止)。

【更新タイミング】原則、決算期末から 4 か月後の月初第 2 営業日。

● **企業ファイナンス(COACTION)**

【収録開始期】1970～

【TARGET】国内証券取引所上場会社(上場廃止含む)。TARGET は 日経会社コードあるいは株式コード(固有名コード)。

【ITEM】会社別の資本異動データや起債情報を取引所発表資料や各企業の公表資料をもとに発生事象ごとに収録。<株式情報>時価発行増資や株式分割などの資本異動情報(効力発生日、権利落ち日、割当日、増減株式数、発行済株式数など) <債券情報>新株予約権付社債(転換社債・新株引受権付社債)等の社債情報(債券銘柄名、発行日、償還日などの起債情報、転換価格や現存額などの変化情報)。

【更新タイミング】原則として発表日翌日。

<<株式・債券>>

● **株式(STOCK)**

■ 株価データ

【収録開始期】東証・大証 1977.1～、名証単独 1979.4～、その他の取引所単独 1986.8～、ジャスダック 1986.9～

【TARGET】国内証券取引所上場銘柄(上場廃止含む)(親株、新株、優先株等)。TARGET コードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】銘柄別の約定値段、気配値段、売買高、権利落ち調整値段。週次、月次、年次の 4 本値、売買高も収録。

【更新タイミング】日次データは、原則として証券営業日の 15:20 頃に 1 回目の更新、18:20 頃の確認までに 5 回更新。18:20 頃過日分データを修正することがある。週次、月次、年次データは、原則として証券営業日の 18:30 頃。

■ 厚生年金基金連合会基準評価時価データ

【収録開始期】1998.9.21～

【TARGET】国内証券取引所上場銘柄(上場廃止含む)。TARGET コードは、日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】銘柄別の日々の評価時価データ(厚生年金基金連合会基準)。

【更新タイミング】原則として証券営業日の 18:40 頃。

■ 銘柄別指標データ <2003.4 末で更新停止>

【収録開始期】上場株式 1986.1～、ジャスダック株式 1993.1～

【TARGET】東証、大証、名証およびジャスダック市場で売買取引対象の親株式銘柄(上場廃止含む)。東証上場の外国会社および大証カントリーファンド銘柄などは対象外。TARGET コードは 日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】株価や売買高、売買代金などの移動平均、かい離率データ。日次のほかに週間、月間の集計データも収録。決算項目を使用する指標では、単独決算のみを利用しています。

■ 銘柄属性データ

【収録開始期】上場株式 1977.1～、ジャスダック株式 1986.9～

【TARGET】国内証券取引所で売買取引対象の全銘柄(上場廃止含む)。TARGET コードは 日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】上場場部、発行済株式数など、株式の日々属性データ。

【更新タイミング】原則として証券営業日の 8:30 頃および 18:30 頃。

■ 外国部銘柄本国相場

【収録開始期】1997.12.22～

【TARGET】東証上場の外国会社株式および外国証券投資信託受益証券(上場廃止含む)。TARGET コードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】上場銘柄の本国市場の取引状況、権利落ち、円換算価格など。

【更新タイミング】原則として証券営業日の当日 15:40 頃。

■ 資本異動データ

【収録開始期】1997.12.22～

【TARGET】国内証券取引所で売買取引対象の全銘柄(上場廃止含む)。TARGET コードは 日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】配当、株式分割・併合、有償・無償増資など。

【更新タイミング】原則として当日 18:30 頃。

■ 業績予想データ

【収録開始期】1997.12.22～

【TARGET】国内証券取引所で売買取引対象の銘柄(上場廃止含む)。内国普通親株式以外の株式、東証上場の外国会社、大証カントリーファンド銘柄、出資証券(日本銀行)、日経株価指数 300 連動型投資信託受益証券、外国証券投資信託受益証券および優先出資証券、預託証券などは対象外。TARGET コードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】単独本決算、単独中間決算の直近実績および直近予想データ

【更新タイミング】原則として証券営業日の当日 18:30 頃。

■銘柄別指標データ(連結ベース)

【収録開始期】2000.10.2～

【TARGET】国内証券取引所で売買取引対象の普通株式銘柄（上場廃止含む）。TARGET コードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。

【ITEM】日次ベースの PER、PBR 等の指標、および株価や売買高などの移動平均その他を銘柄ごとに収録。週次、月次の期末値と平均値も収録。決算項目を使用する指標では、連結決算を優先的に利用。

【更新タイミング】原則として証券営業日の 19:30 頃。

● **市場指標(平均株価 指数) (MKTINDEX)**

【収録開始期】日経平均株価の日々終値 1949.5.16～、日々四本値 1985.3.25～(長期時系列データ)

【TARGET】日経平均、日経 300、日経 500、業種別日経平均、東証の主要関連指数、その他各指標。TARGET コードは指数コード。

【ITEM】指数値、市場別売買高・売買代金等の日次・週次・月次・年次データ。

【更新タイミング】日次データは原則として証券営業日の 15:40 頃。18:20 頃に過日分データを修正することがある。週次、月次、年次のデータは原則として証券営業日の 19:00 頃に更新。

● **日経平均基礎情報(指数) (DIN225IDX)**

【概要】日本経済新聞社が公表する、日経平均に関する情報を収録します。

【収録開始期】1998.4.1～

【TARGET】日経平均株価

【ITEM】指数値、除数

【更新タイミング】原則として証券営業日の 21:00 頃翌日情報を更新

● **日経平均基礎情報(銘柄別) (DIN225ISS)**

【概要】日本経済新聞社が公表する、日経平均の採用銘柄に関する情報を収録します。

【収録開始期】日経平均株価に採用された日から収録。ただし、最古期は 1998/4/1。

【対象市場/銘柄】日経平均採用銘柄(上場廃止銘柄含む)。TARGET は日経会社コードあるいは株式コード。

【ITEM】採用株価、株価換算定数、基準値、配当落ち額等

【更新タイミング】原則として証券営業日の 21:00 頃翌日情報を更新

● **日経 300 基礎情報(指数) (DIN300IDX)**

【概要】日本経済新聞社が公表する、日経 300 に関する情報を収録します。

【収録開始期】1998.4.1～

【TARGET】日経株価指数 300

【ITEM】指数値、基準時価総額、時価総額、修正額

【更新タイミング】原則として証券営業日の 21:00 頃翌日情報を更新

● **日経 300 基礎情報(銘柄別) (DIN300ISS)**

【概要】日本経済新聞社が公表する、日経 300 の採用銘柄に関する情報を収録します。

【収録開始期】指数に採用された日から収録。ただし、最古期は 1998/4/1。

【対象市場/銘柄】日経 300 採用銘柄(上場廃止銘柄を含む)。TARGET コードは日経会社コードあるいは株式コード(固有名コード)。

【ITEM】採用株価、指数用株式数、基準値、配当落ち額、修正額等

【更新タイミング】原則として証券営業日の 21:00 頃翌日情報を更新

● **TOPIX 基礎情報(指数)・新(TOPIXDIIDX)**

【収録開始期】2014.1.6～

【TARGET】TOPIX、東証第二部株価指数、規模別株価指数、業種別株価指数等の 97 指数種別(185 指数)。TARGET コードは指数コード。

【ITEM】配当込み指数関連:基準時価総額(配当込み)、時価総額修正額(配当込み)、指数終値(配当込み)、会社数(配当込み)等。通常指数関連:基準時価総額、時価総額修正額、指数終値、会社数等。

【更新タイミング】証券営業日の前営業日の 23 時頃。

● **TOPIX 基礎情報(銘柄別)・新(TOPIXDIISS)**

【収録開始期】指数に採用された日から収録。ただし、最古期は 2014/1/6。

【TARGET】TOPIX、東証第二部株価指数、規模別株価指数、業種別株価指数等の 97 指数種別(185 指数)(JPX 日経インデックス 400 を除く)の採用銘柄(上場廃止銘柄を含む)。TARGET コードは日経会社コードあるいは株式コード(固有名コード)。

【ITEM】指数用株価終値、指数用上場株式数、指数用配当金、最終時価総額、浮動株比率等。

【更新タイミング】証券営業日の前営業日の 23 時頃。

● **JPX 日経 400 基礎情報(銘柄別) (JPX400ISS)**

【収録開始期】指数に採用された日から収録。ただし、最古期は 2014/1/6。

【TARGET】JPX 日経インデックス 400 の採用銘柄(上場廃止銘柄を含む)。TARGET コードは日経会社コードあるいは株式コード(固有名コード)。

【ITEM】指数用株価終値、指数用上場株式数、指数用配当金、最終時価総額、浮動株比率等。

【更新タイミング】証券営業日の前営業日の 23 時頃。

- **TOPIX 基礎情報(指数)(DITOPIXIDX)(更新停止:2014.3.31)**
 【収録開始期】TOPIX 基礎情報(配当込み指数)1989.1.4～。TOPIX 基礎情報((配当無し)指数)1999.3.29～。
 【TARGET】東証株価指数(TOPIX)、東証第二部株価指数、規模別株価指数、業種別株価指数、TOPIX Core 30 等の 47 指数。配当込み指数と配当無し指数を収録しているため 合計 94 系列。TARGET コードは指数コード。
 【ITEM】時価総額、指数用上場株式数、基準時価総額、指数値等。
- **TOPIX 基礎情報(銘柄別)(DITOPIXISS)(更新停止:2014.3.31)**
 【収録開始期】1993.7.5～。指数に採用された日から収録。
 【TARGET】東証株価指数(TOPIX)またはサブインデックス、ニューインデックスなどの採用銘柄(上場廃止銘柄を含む)。
 TARGET コードは日経会社コードあるいは株式コード(固有名コード)。
 【ITEM】指数用上場株式数、時価総額等。
- **上場債券(BOND)**
 【収録開始期】銘柄属性、価格利回り情報は 1977.1.4～、厚生年金基金連合会基準評価時価は、1998.8.27～
 【TARGET】国内証券取引所上場債券(国債、社債、転換社債、ワラント債、ワラント、交換社債等、地方債、金融債、外債、外国転換社債等。上場廃止債券銘柄を含む)。TARGET コードは銘柄コード、新証券コード、株式コード(固有名コード)、日経会社コード。
 【ITEM】銘柄属性、価格利回り情報の日次・週次・月次・年次データ。厚生年金基金連合会評価時価データ。
 【更新タイミング】日次データは、原則として証券営業日の 15:30 頃。19:00 頃、過日分データの修正が入ることがある。厚生年金基金連合会基準評価時価は 19:00 頃。週次、月次、年次データは原則として証券営業日の 18:30 頃。
- **証金データ(銘柄別)(SECFINISS)**
 【収録開始期】1998.2.25～
 【TARGET】日証金の貸借銘柄、貸借融資銘柄(上場廃止含む)。TARGET コードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。
 【ITEM】貸株残高、融資残高、逆日歩等。
 【更新タイミング】原則として証券営業日の 13:00 頃に前営業日のデータを更新。
- **証金データ(市場)(SECFINMKT)**
 【収録開始期】1998.2.25～
 【TARGET】日証金合計。TARGET コードは指標コード。
 【ITEM】貸株残高、融資残高集計値等。
 【更新タイミング】原則として証券営業日の 13:00 頃に前営業日のデータを更新。
- **信用残(銘柄別/貸借銘柄版・長期時系列用)(MARGINISS)**
 【収録開始期】1994.12.11～
 【TARGET】東証 1・2 部上場銘柄(上場廃止含む)。TARGET コードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。
 【ITEM】週末時点の制度信用取引と一般信用取引の売残高・買残高。
 【更新タイミング】原則として毎週第 2 営業日の 17:00 頃に更新。
- **信用残(三市場)(MARGINMKT)**
 【収録開始期】1994.12.11～
 【TARGET】東証・名証の各 1・2 部。TARGET コードは指標コード。
 【ITEM】週末時点の売残高・買残高の上場部別、制度別、取引別集計値。
 【更新タイミング】原則として、速報は毎週第 2 営業日の 17:00 頃に、確報は毎週第 3 営業日の 16:00 頃に更新。
- **信用残(銘柄別/一般信用+制度信用)(NMARGINISS)**
 【収録開始期】東証 2003.1.5～、大証 2003.1.5～2013.7.7、ジャスダック 2004.4.18～2013.7.7、ヘラクレス 2003.5.4～2010.10.3。
 【TARGET】国内証券取引所上場銘柄(上場廃止含む)。TARGET コードは日経会社コード、株式コード(固有名コード)。
 【ITEM】国内証券取引所が発表する一般信用取引残高・制度信用取引残高・残高合計(一般信用取引+制度信用取引)について、全銘柄(貸借銘柄、信用銘柄、非貸借・非信用銘柄)の売・買残高。
 【更新タイミング】原則として毎週第 2 営業日に更新。
- **投資部門別売買高(SECTORVOL)**
 【収録開始期】1974.6.30～
 【TARGET】総合証券会社売買内容調査に基づく。TARGET コードは指標コード。
 【ITEM】週末時点の総合証券会社の自己取引および委託取引(法人、個人、外国人等)別売買動向データ。
 【更新タイミング】原則として毎週第 4 営業日の 18:00 頃。
- **日経総合株価指数(NCINDEX)**
 【収録開始期】日次データは 1980.1.4～、月次データは 1999.7～
 【TARGET】日経総合株価指数。TARGET コードは指標コード。
 【ITEM】指数値と株価収益率・利回り等関連指標、月次の集計値。
 【更新タイミング】日次データは、原則として証券営業日の 18:00 頃。月次データは、原則として毎月最終証券営業日の 19:00 頃。
- **株式市場統計(連結)(STKINDEXC)**
 【収録開始期】2000.10.2～
 【TARGET】日経平均、日経 300、日経 500、業種別日経平均、東証の主要関連指数、その他各種指標。TARGET コードは連結指標コード。
 【ITEM】指数値と移動平均、株価収益率、利回り、市場別売買高・売買代金等関連指標(連結決算ベース優先)の日次、

週次、月次データ。

【更新タイミング】原則として証券営業日の 18:30 頃。

● **株価指数先物(STKIDXFT)**

【収録開始期】日経平均先物と TOPIX 先物は 1988.9.3～、日経 300 先物は 1994.2.14～。

【TARGET】国内証券取引所上場の株価指数先物。TARGET コードは銘柄コード、指標コード、銘柄コード+限月

【ITEM】属性情報と価格情報(日次・週次・月次データ)。

【更新タイミング】日次データは原則として証券営業日の 15:40 頃、18:40 頃、過日分データの修正が入ることがある。属性項目のうち、特別清算指数値(SQ 値)は、限月を迎えた取引の SQ 算出日の 18:30 頃。週次、月次データは原則として証券営業日の 19:00 頃に更新。

● **株価指数オプション(STKIDXOP)**

【収録開始期】1989.6.12～

【TARGET】国内証券取引所上場株価指数オプション(上場廃止含む)。TARGET コードは銘柄コード、指標コード、銘柄コード+限月

【ITEM】属性情報と価格情報(日次・週次・月次データ)。

【更新タイミング】日次データは原則として証券営業日の 15:40 頃、19:10 頃、過日分データの修正が入ることがある。属性項目のうち「特別清算指数値(SQ 値)」は、限月を迎えた取引のみ、SQ 算出日の 18:30 頃。週次、月次データは原則として証券営業日の 19:10 頃に更新。

● **株券オプション(EQUITYOP)**

【収録開始期】1997.7.18～

【TARGET】国内証券取引所上場株券オプション(上場廃止含む)。TARGET コードは銘柄コード、株式コード(固有名コード)、日経会社コード、銘柄コード+限月。

【ITEM】属性情報、価格情報(日次・週次・月次データ)。

【更新タイミング】日次データは、原則として証券営業日の 15:40 頃に更新。19:10 頃、過日分データの修正が入ることがある。週次、月次データは原則として証券営業日の 19:10 頃。

● **株式投資ポートフォリオ(INVINDEX)**

【収録開始期】1975.1～

【TARGET】東証、大証、名証の上場銘柄(上場廃止銘柄を含む)。TARGET は日経会社コードおよび株式コード(固有名コード)。

【ITEM】月次ベースの株式投資収益率、期待収益率、マーケット指標に対するベータ値、アルファ値など。

【更新タイミング】原則として毎月第一証券営業日の正午頃。

● **非上場債券(UNBOND)**

【収録開始期】1992.1.6～

【TARGET】国債(利付超長期(20、30、40 年)、利付長期(6、10 年)、割引中期(3、5 年)、利付中期(2、3、4、5 年)、割引短期(3ヵ月、6ヵ月))、政府短期証券(2ヵ月)、国庫短期証券、変動利付国債(15 年)、物価連動国債(10 年)、入札前取引国債、分離振替国債、地方債(都道府県債、市町村債、地方公社債)、特別債(政府保証債、財投機関債)、金融債(利付銀行債、利付金庫債、利付全信連債、割引銀行債、割引金庫債)、事業債(一般事業債、電力債、その他事業債(電電債、交通債、NHK 放送債)、分離型新株引受権付社債の分離後の社債)、および外債(円建外債)など。地方債、特別債、事業債については、公募・非公募ともに対象。TARGET コードは日経債券 12 桁コードあるいは銘柄コード。

【ITEM】属性情報、売買参考統計値、評価時価等。

【更新タイミング】銘柄属性は原則として証券営業日の 18:00 頃と 19:30 頃の 2 回更新、店頭売買参考統計値は、翌証券営業日日付の速報値を証券営業日の 18:00 頃と 19:30 頃の 2 回、確報値を翌 13:00 頃更新。評価時価は翌証券営業日日付の速報値を証券営業日の 19:30 頃、確報値を翌 13:00 頃更新。

● **債券標準価格(JS Price)(JSPRICE)**

【収録開始期】2002.1.31～

【TARGET】公募・非公募の内国債および外債、ユーロ円債、TARGET コードは日経債券 12 桁コード。

【ITEM】利率、償還日、発行日など属性情報、および時価。

【更新タイミング】原則として国内債は証券営業日の 20:00 頃、ユーロ円債は同じく 21:00 頃。月末はそれぞれ 1 時間程度遅い時間に更新。

● **債券先物(BNDFT)**

【収録開始期】1985.10.19～

【TARGET】大阪取引所上場の債券先物銘柄(上場廃止含む)、限月間スプレッド取引。TARGET コードは銘柄コード、銘柄コード+限月、対象先物コード

【ITEM】属性情報、価格情報(日次・週次・月次データ)。

【更新タイミング】日次データは、速報、確報の 1 日 2 回更新。速報は原則として証券営業日の 16:30 頃。確報は原則として証券営業日の 19:10 頃。週次、月次データは原則として証券営業日の 19:10 頃。

● **債券先物オプション(BNDFTOP)**

【収録開始期】1990.5.11～

【TARGET】大阪取引所上場の債券先物オプション(上場廃止含む)。TARGET コードは 銘柄コード、銘柄コード+限月、対象先物コード。

【ITEM】属性情報、価格情報(日次・週次・月次データ)。

【更新タイミング】日次データは、原則として証券営業日の 15:40 頃、19:10 頃、過日分データの修正が入ることがある。週次、月次データは、原則として証券営業日の 19:10 頃。

- **日経公社債インデックス(NKBNIDX)**
【収録開始期】1977.7.1～
【TARGET】日本経済新聞社が日々算出する公社債インデックス(長期債、中期債、短期債)。TARGET コードは債券市場指標区分。
【ITEM】指数値。
【更新タイミング】原則として証券営業日の 10:00 頃。
- **日経国債インデックス(BNDIXMKT)**
【収録開始期】1977.1.5～
【TARGET】日経国債インデックスの債券市場指標区分。TARGET コードは債券市場指標区分。
【ITEM】10年固定利付国債を残存年限でカテゴライズし、収益率、価格、およびパフォーマンス指標を算出した情報。
【更新タイミング】原則として上場国債インデックスは証券営業日の 19:00 頃に当日分データを更新。

マクロ系データベース

<<商品>>

- 商品市況データ(COMOP)
【収録開始期】1955.1～
【ITEM】日経新聞商品面の主要相場、日経産業新聞掲載の市中価格などに掲載されている価格データや指数値。週次・月次・年次の加工価格データ等。
- 商品先物データ(COMMFT)
【収録開始期】1982.1.4～
【TARGET】国内取引所上場の商品先物の商品コードと限月コード
【ITEM】日次四本値、帳入値、出来高、取組高など。一部場銘銘柄は場節毎の値段や出来高も収録。および、週次・月次・年次に集計されたデータ。

<<マクロ・金融>>

- 為替金利日次(IRF)
【ITEM】国内・海外の為替・金利に関する約1,800系列の日次・週次データ。更新タイミング：原則、公表日翌日。
- 日経総合経済ファイル(CENT)
【ITEM】国民所得統計、生産活動、企業活動、金融・財政、貿易・国際収支、労働、物価、消費など国内の主要経済統計。更新タイミング：原則として公表日の翌日。
- 生産・出荷・在庫統計(COMO)
【ITEM】経済産業省「主要製品生産・出荷・在庫実績」の全品目。更新タイミング：主要系列は公表日の翌日。
- 消費・家計統計(CONSUM)
【ITEM】総務省「家計調査」主要系列と「消費者物価指数」の全系列。更新タイミング：主要系列は公表日の翌日。
- 家計調査日次データ(CHDAY)
【ITEM】総務省「家計調査」のうち「日別支出」を収録（非農林漁業世帯の全国・全世帯の日別支出約700系列）。更新タイミング：翌々月の中旬に1ヵ月分をまとめて更新。
- 海外直接投資データ(DINV)
【ITEM】財務省「対外直接投資届出統計」の約1,300系列と経済産業省「我が国企業の海外事業活動調査」の約1,400系列を収録。更新タイミング：毎年1回。
- 金融統計(MONEY)
【ITEM】マネーサプライ、金利、資金循環勘定、各種金融機関の主要勘定、公社債市場関連統計、一般経済統計など。更新タイミング：主要系列は公表日の翌日。
- 日銀物価指数(PRICE)
【ITEM】日本銀行「物価指数月報」の企業物価指数、輸出入物価指数、製造業部門別投入・産出物価指数、企業向けサービス価格指数の全系列。更新タイミング：原則として公表日の翌日。
- 企業規模別総合経済データ(SIZE)
【ITEM】中小企業庁「中小企業調査月報」、日本銀行「企業短期経済観測調査」、「経済統計月報」、「中小企業金融公庫月報」などの企業規模別経済統計を収録。
- SNAストックデータ(SNAST)
【ITEM】内閣府「国民経済計算年報」ストック編に収録されている家計・企業・政府などの資産・負債データ。
- 日銀短観データ(TANKAN)
【ITEM】日本銀行「主要企業短期経済観測調査」、「全国企業短期経済観測調査」を収録。更新タイミング：主要系列は公表日の翌々日。
- 貿易統計(TRADE)
【TARGET】国コード
【ITEM】財務省「日本貿易月表」の品目別・相手国別の輸出入価格と数量・集計値データを収録。更新タイミング：毎月1回、原則として公表日当日。
- 法人企業統計季報データ(INCORP)
【ITEM】財務省「法人企業統計季報」の全系列を四半期ベースで収録。更新タイミング：原則として公表日の午後。
- 法人企業統計年報データ(INCORPA)
【ITEM】財務省「年次別法人企業統計調査」の調査結果を収録。調査対象は「季報」より広く、金融・保険業を除く全営利法人。更新タイミング：毎年1回。
- 三菱UFJ銀行対顧客為替相場(BOT)
【ITEM】三菱UFJ銀行が毎日発表する通貨別、取引種類別の顧客向け為替相場を収録。更新タイミング：原則として三菱UFJ銀行営業日の正午頃に当日のデータを更新。1日の値動きが激しいときに発表される2次相場も収録。

<<産業統計>>

- エネルギー統計(ENERGY)
【ITEM】石油、石炭、電気、ガス、原子力などの需給、価格データおよび一般経済統計。更新タイミング：主要系列は公表日の翌日。
- 産業データ(INDY)
【ITEM】経済の基盤である産業活動の分析に不可欠な産業統計データを幅広く収録。日本産業機械工業会、日本自動車販売協会連合会、日本百貨店協会など各業界団体が独自に調査・発表する統計を中心に官庁統計も収録。更新タイミング：原則として公表日の翌日。
- 産業総合統計(NEWINDY)

【ITEM】業界団体や官公庁の公表する統計をひとつにまとめて収録。業界統計や生産動態、生産・出荷・在庫、エネルギー、外国貿易概況の各統計を産業ごとに統合・整理。

● 工業統計(産業編)(COMAI)

【ITEM】経済産業省「工業統計：産業編」から、産業別の事業所・従業者数、出荷額、付加価値額などを収録。

● 工業統計(品目編)(COMAC)

【ITEM】経済産業省「工業統計：品目編」から、品目別の出荷金額、産出事業所数を収録。

● 生産動態統計(PRD)

【ITEM】経済産業省「生産動態統計」の全データを収録。更新タイミング：毎月1回。

● 外国貿易概況(TRADE1)

【ITEM】財務省の貿易月報輸出入実績データを日本関税協会の外国貿易概況の分類に合わせて集計。輸出数量・金額は420品目(約96,000系列)、輸入数量・金額は444品目(約53,000系列)を収録。更新タイミング：公表日当日。

<<地域・人口>>

● 地域総合経済(AREACENT)

【TARGET】地域コード

【ITEM】総務省「就業構造基本調査」、総務省「事業所統計」、内閣府「県民経済計算」などの都道府県別統計を収録。更新タイミング：毎年1回。

● 国勢調査5歳刻み(POP1)

【TARGET】地域コード

【ITEM】総務省「国勢調査」の5歳刻みデータを収録。更新タイミング：5年に1度。

● 国勢調査その他(POP2)

【TARGET】地域コード

【ITEM】総務省「国勢調査」を収録。更新タイミング：5年に1度。

● 人口推計(POP3)

【TARGET】地域コード

【ITEM】国立社会保障・人口問題研究所の人口推計を収録。

● 商業統計(COMM)

【TARGET】地域コード

【ITEM】経済産業省「商業統計」を収録。更新タイミング：原則として3年に1度。

● 工業統計(INDUS)

【TARGET】地域コード

【ITEM】経済産業省「工業統計」を収録。更新タイミング：毎年1回。

● 地方財政(FINA)

【TARGET】地域コード

【ITEM】日本経済新聞社調査および総務省「市町村別決算状況」の地方自治体の財政データを収録。更新タイミング：毎年1回。

● 建設統計(CONST)

【TARGET】地域コード

【ITEM】建設工事受注、建築物着工、住宅着工、建設工事費デフレータなどの建設活動に関する各種月次統計。更新タイミング：月次データは原則として公表日の翌日。

<<海外マクロ>>

● IMF国際金融統計(IFS)

【ITEM】International Financial Statisticsを収録。IMF加盟各国の為替・金利など、金融、物価、輸出入、国民所得統計など。更新タイミング：毎月1回。

● IMF多国間貿易統計(DOT)

【ITEM】Direction of Tradeを収録。IMF加盟各国の国別輸出入額。約250カ国・地域の相手国別輸出入額を収録。更新タイミング：毎月1回。

● IMF世界経済見通し(WEO)

World Economic Outlookを収録。世界191カ国・地域のGDPなど主要経済統計43項目について、過去の実績と5年先までの予測を収録。更新タイミング：毎年2回。

● OECD主要経済指標(OECDMEI)

【ITEM】Main Economic Indicatorsを収録。OECD加盟各国のGDP、生産、雇用、金利、為替レートなど主要マクロデータを収録。更新タイミング：毎月1回。

● OECD国民所得統計(OECDQNA)

【ITEM】Quarterly National Accountsを収録。OECD加盟各国の国民経済計算ベースの国民総支出と内訳、分配部門各データを収録。更新タイミング：毎四半期に1回。

● DRI米国マクロ経済・金融(DRIBASIC)

【ITEM】米国の月次・四半期・年次マクロデータ、金利や為替などの金融データを収録。

● DRI国際経済・金融(DRIINTL)

【ITEM】主要国のマクロ経済・金融統計データを収録。

● DRI金融・為替(DRIDAILY)

【ITEM】欧米市場の金利・為替レートと米国主要経済指標を収録。